

ニ依テ腹部ヲ暖メ子宮及胎兒ノ位置ヲ保護シ且ツ身體ノ運動ヲ輕易ナラシムル等ノ利益アレ  
バナリ、然シ腹帶ヲ纏フニハ舊來慣用セシ幅狹キモノヲ緊縛スル事ナク廣幅ノ儘ニテ耻骨縫  
際ヨリ子宮底ニ至ル間ヲ緩ニ過ギズ、緊ニ過ギズ適當ニ平等ニ纏フルヲ可トス

### 三、分娩初期ニ於テ注意スベキ事項

(明治四十五年第一回第三問ニ同シ)

### 四、陣痛時ニ於ケル子宮ノ狀況

妊娠末期ニ於テ一旦下降セル子宮底ハ陣痛ノ發作、即チ疼痛ヲ伴フ子宮ノ收縮ニ伴ヒ再ビ上  
昇シテ心窩ニ達ス、之レ陣痛ハ子宮ノ縱徑ヲ延長セシムル爲メナリ、子宮ノ收縮ハ各部平等  
ニ起ルモノニアラズシテ子宮底及子宮體ハ筋肉厚キヲ以テ收縮力最モ強キモ子宮頸ハ質鬆粗  
ニシテ薄弱ナルヲ以テ收縮力モ亦從テ弱シ、故ニ薄弱ナル子宮頸部ハ漸次上方ニ牽引ヒラレ  
以テ子宮内口ヲ開キ下部ノ卵膜徐々ニ剝離セラレ、子宮下部ニ壓迫セラレタル羊水ニヨリ胎  
胞ヲ形成シ、子宮口ヲ開大シ胎胞ヲ子宮口外ニ膨出スルニ至ル

### 五、初生兒臍部疾患及其取扱法

(1)、臍部ノ糜爛、毎日殺菌水ニテ洗ヒ、硼酸末又ハ「ヨードホルム」ヲ撒布シ「ガーゼ」又ハ脱

脂綿ヲ貼シ綳帶ヲ施ス、速カニ治セザルモノハ醫治ニ依ル

(2)、臍部ノ炎症、「アルコール」冷罨法ヲ用ユ

(3)、臍出血、消毒セル小綿球ヲ以テ強ク壓抵シ綳帶ス、出血強度ナル時ハ速ニ醫治ヲ受ク

(4)、臍脱腸、便通ヲ佳良ナラシメ若シ既ニ脱腸ヲ發スルノ徴アラバナルベク啼泣セシメズ、

綿花又「ハガーゼ」ヲ壓抵シ叮嚀ニ臍綳帶ヲ施シ而シテ醫ノ診ヲ受ケシム

### 六、會陰破裂ノ原因及處置

原因、會陰保護術ノ不完全ニ起因スルノ外、墜産、過熟胎兒、額位、顔面位、高年初産婦、  
會陰ノ強硬ナルモノ、陰門ノ狹クシテ開キ難キモノ、胎兒ノ肩胛廣キモノ、過劇陣痛、手術  
殊ニ鉗子手術、後進兒頭ノ娩出術等ノ場合ニ於テ最モ破裂ヲ起シ易シ

處置、破裂ガ陰唇繫帶ニミ止マル時ハ一%ノ「リゾール水」ニテ洗滌シ殺菌「ガーゼ」ニテ壓  
定シ丁字帶ヲ施シ兩脚ヲ強ク閉合セシム、陰唇繫帶ヨリ會陰ノ中央以上ニ裂レタルトキハ速  
ニ醫治ヲ請ケ遅クモ二十四時間内ニ於テ創面ノ新鮮ナル中ニ縫合ヲ施サレバ癒着シ難シ

一、定期産、流産、早産、遲産ノ區別

(明治四十一年第四回第三問ニ同シ)

原 因、

二、妊婦卒倒ノ原因及處置

(イ) 窮屈ナル衣類ヲ纏ヒ或ハ帶、紐等ヲ堅ク締メテ腹部ヲ絞壓スル等、凡テ身體ノ強キ壓迫ニ因リテ來ル

(ロ) 劇場、寄席、寺院等閉鎖セル室内ニ多人數相集リ汚穢セル空氣ヲ吸入セシ時、殊ニ心臟病又ハ貧血性婦人ニ於テ多シ

(ハ) 甚シク便秘セル時

(ニ) 精神ノ感動及周圍ノ高キ温熱等ナリ

處 置、

平素妊婦ニ注意シテ前記原因トナルベキ事ヲ避ケシメ卒倒時ノ處置トシテニ直ニ醫治ヲ受クルハ勿論ナレド左ノ處置ヲ行フ

(イ) 直ニ平臥セシメ頭部ヲ稍低下シテ窮屈ナル衣類ヲ解キ、又窓戸ヲ開放シテ新鮮ナル大

氣ヲ吸入セシメ且ツ室内ハ適當ノ温度ヲ保タシム

(ロ) 頭部ニ冷罨法、又ハ水罨法ヲ行ヒ、「エーテル」、「アムモニア」、「ホフマン氏」液或ハ酢又ハ香水ノ如キ刺激性ノモノヲ吸入セシメ、少量ノ冷水又ハ日本酒、葡萄酒ノ如キ亢奮劑ヲ與ヘ、且ツ温暖ナル毛布又ハ其他ノ布片ヲ以テ身體ヲ摩擦シ心部ニ芥子泥ヲ貼スベシ

三、母乳ノ効能

母乳ヲ以テ小兒ヲ營養スルハ自然ノ道理ニシテ、異種族動物ノ乳汁ニ勝ルハ明ナリ、母乳ハ小兒ノ各種ノ傳染病ニ對シ一種ノ抗毒素ヲ有シ、且又母乳ヲ哺乳セシムルハ母體ノ健康ヲ維持スルニ必要ナリ、母乳ハ殆ド無菌性ナルヲ以テ人工營養品ノ如ク殺菌スルノ煩ヒナシ、又直接乳房ヨリ哺乳セシムルヲ以テ容器ヲ消毒スル等ノ煩ヒナシ、殊ニ産褥一週マデ分泌スル初乳ハ消化作用未完全ナル初生兒ノ胃ニ適シ、營養ノ外下痢ノ効アルヲ以テ胎糞ヲ排出セシムル効アリ、人工營養品ニ在テハ小兒ノ年齡ニ應シテ稀釋スルヲ要スルモ、母乳ハ分娩後時日ノ經過ニ從ヒテ乳汁成分ニ淡濃ヲ來タシテ、小兒ノ發育ニ伴フノ効アリ

四、分娩時胎兒心音ノ變化

分娩時ニ於ケル胎兒心音ハ陣痛發作時ニ至レバ著シク緩徐トナリ、休憩スレバ再ビ増加スル

モノナリ、若シ過劇陣痛永ク持續スレバ心音ハ漸々緩徐トナリ遂ニ全ク止ミ胎兒死スルニ至ル、其他陣痛過劇ナラザルモ分娩遅延スル時ハ心音微弱トナリ、其數著シク増加スルカ、或ハ減少スルコトアリ、如斯ハ胎兒危險ノ徵候ナリ

#### 五、妊婦ノ食餌ニ對スル注意

平素習慣セル食物ノ中ヨリ營養分多ク、且ツ消化シ易キ物ヲ撰ビ刺激性ノモノハ避ケルヲ良シトス、又其食ハ減食ニ過ギズ、飽食ニ過ギズ、殊ニ晚餐ハ消化シ易キモノヲ用ヒ可成過食セザルヲ良トス

飲食物不適當ナル時ハ遂ニ惡阻ノ原因トナリ、或ハ腸ヲ刺戟シテ下痢ヲ來シ、其刺激ハ子宮ニ及ボシ流産又ハ早産ヲ惹起スルコトアリ、妊婦ノ希望スルモノニシテ害ナキモノハ與フルヲ可トス、若シ嘔吐アルトキハ消化シ易キ食物ヲ數回ニ分チテ食セシム、妊婦ノ嫌惡スルモノ及ヒ曾テ之ヲ食シテ惡心、嘔吐、酸敗、頭痛、腹痛、下痢等ヲ發シタルモノハ假令滋養物タリトモ與ヘザルヲ可トス

#### 六、異常骨盤ノ種類

(明治三十八年第三回第五問ニ同シ)

### 大正四年 第一回

#### 一、成熟卵トハ如何

(明治四十四年第二回第一問ニ同シ)

#### 二、梅毒ノ離床期ハ何ヲ標準トシテ決定スルヤ

(大正三年第一回第五問ニ同シ)

#### 三、産室ノ設備如何

産室ハ閑靜ニシテ、光線ノ射入、空氣ノ流通良キ室ヲ撰ビ、室ノ廣サハ通常六疊乃至八疊ヲ最モ適當トス、且ツ室内ハ一定ノ溫度ヲ保チ、塵埃ノ飛散セザル様充分ニ清潔ナラシメ、不必要ノ器具ハ悉ク之ヲ取除キ、又夜間ナレバ強力ナル電燈、其他燈火ノ準備ヲナシ置クベシ、而シテ産床ハ室ノ中央ニ四方ヨリ近寄り得ル様ニ設ケ、臀部ニ當ル一端ハ窓ニ向ハシムル如クスベシ、小兒ノ臥床ハ産床ノ傍ニ用意シ置クヲ良シトス

#### 四、妊娠性嘔吐ノ手當如何

(明治三十七年第二回第五問ニ同シ)

五、狹窄骨盤ノ疑ヲ抱クベキ場合如何

(イ)前回ノ分娩困難ナリシモノ、(ロ)懸垂腹トナレルモノ、(ハ)妊娠末期ニ至ルモ兒頭骨盤内ニ進入セザルモノ、(ニ)分娩時正規ノ陣痛アルニ關ラズ兒頭毫モ先進セザルモノ、(ホ)前顛頂骨位、深在横位、大顛門ノ下降等ヲ來スモノ、(ヘ)脊柱ノ彎曲セルモノ、常ニ跛行セルモノ、(ト)身體矮小ナルモノ、(チ)腰部狹小ナルモノ、(リ)佝僂病ニ罹リシ既往症アルモノ  
(ヌ)骨軟化症アルモノ等ハ狹窄骨盤ノ疑ヲ抱クベキナリ

六、産出期ニ於ケル陣痛微弱ハ如何ナル危害ヲ來スヤ  
(明治三十八年第二回第六問(ロ)ニ同シ)

### 大正四年 第二回

一、胎盤ノ機能

(明治四十年第五回第一問参照)

二、妊娠中子宮出血ノ原因

(明治三十五年第一回第五問ニ同シ)

三、第二骨盤位ニ於ケル胎兒心音ノ聴取部位  
臍ノ右ニ於テ臍ノ高サ、又ハ臍ヨリ稍上方ニ於テ聴取ス

四、産瘤ト血瘤トノ鑑別

(明治四十年第二回第三問ニ同シ)

五、母乳ノ効能

(大正三年第二回第三問ニ同シ)

六、褥婦ノ離床時期ハ何ヲ標準トシテ決定スルヤ

(大正二年第一回第五問ニ同シ)

### 大正五年 第一回

一、喇叭管ノ位置及機能

(明治四十三年第一回第一問参照)

二、母乳ハ何故ニ宜敷ヤ

(大正三年第二回第三問ニ同シ)

(四十四年第三回第一問ニ同シ)

顔面位分娩ニ在テハ反屈高度ナルヲ以テ、胎兒ノ頸部強ク伸展シテ後頭ハ項部ニ接着シ、頤部ハ胸壁ヲ離レテ先進スルヲ以テ頤後頭徑延長シ、鉛直軸ニ壓平セラレ所謂長形頭顱トナル、顔面ハ縱横ニ壓縮セラレ醜形ヲ呈ス

産瘤ハ體向ニ應スル先進ノ一側ノ口角ニ發生シテ、甚ダシク頰部ニ蔓延シ、且ツ頤部ヨリ前頭ニ向ヒ強ク壓縮セラレテ頰ハ醜貌ヲ呈ス

四、如何ナル場合ニ分娩ノ異常ヲ來スヤ

分娩ナル機能ハ娩出力産道、及卵ノ正規ナル状態ヲ失フ場合ニハ忽チ異常ヲ來スモノナリ、夫故正規ノ状態ナルニ拘ラズ偶發スル變化ニヨリテ忽チ異常分娩ヲ來スモノナリ

五、分娩時ニ於ケル排尿ノ必要及排尿法

分娩時膀胱緊滿スルトキハ子宮ノ收縮ヲ減ジ、開口期遅延シ爲メニ分娩ニ長時ヲ費スヲ以テ排尿ヲ必要トス、排尿ノ方法ハ可成仰臥位ニ於テ便器ヲ用ヒテ排尿セシムルヲ良シトス、若シ自然ニ排尿シ難キ時ハ下腹ニ温罨法ヲ施スカ、或ハ指ヲ前腔穹隆部ニ當テ兒頭ヲ上方ニ壓

スルヲ可トス、決シテ廁ニ立タシムルベカラズ、早期破水或ハ急産ヲ來スコトアルベシ、尿道「カテーテル」ハ止ヲ得ザル時ノ外使用セザルヲ良シトス

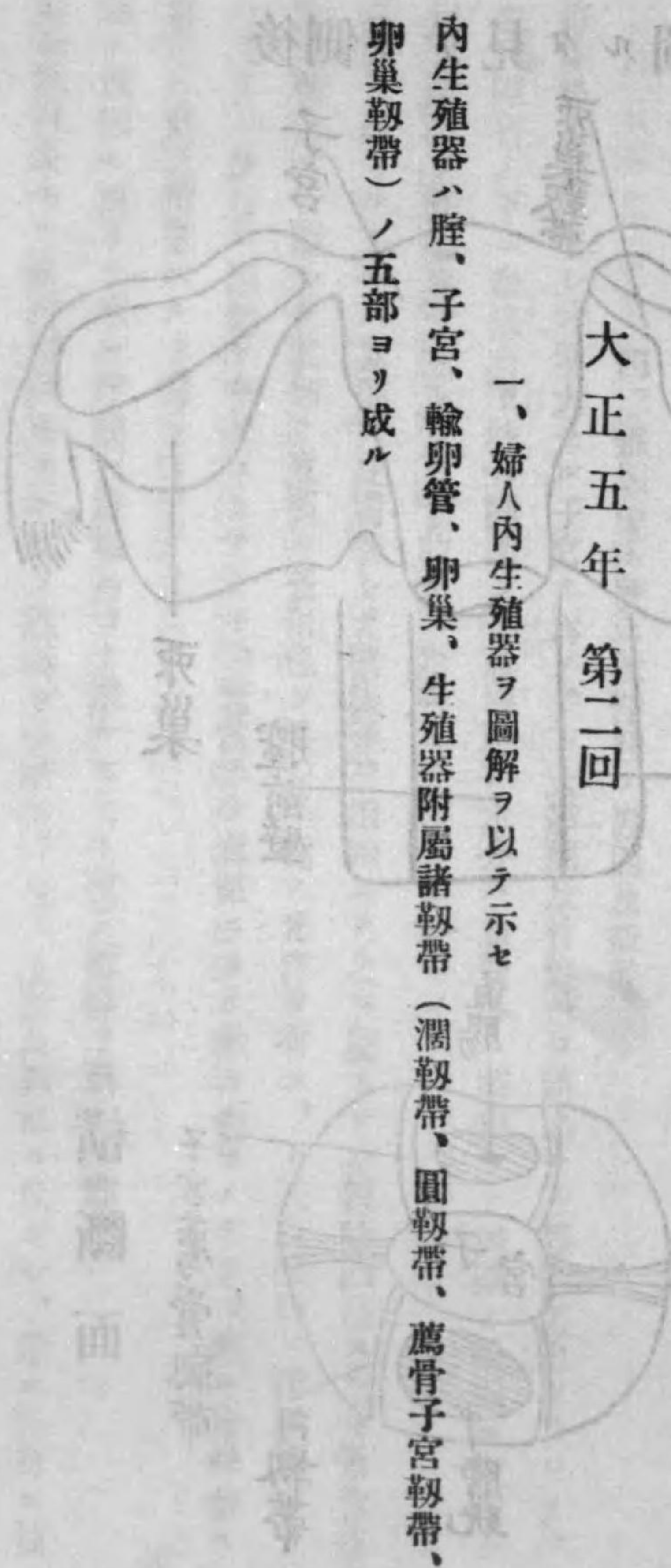
六、産褥熱患者ニ對スル産婆ノ心得

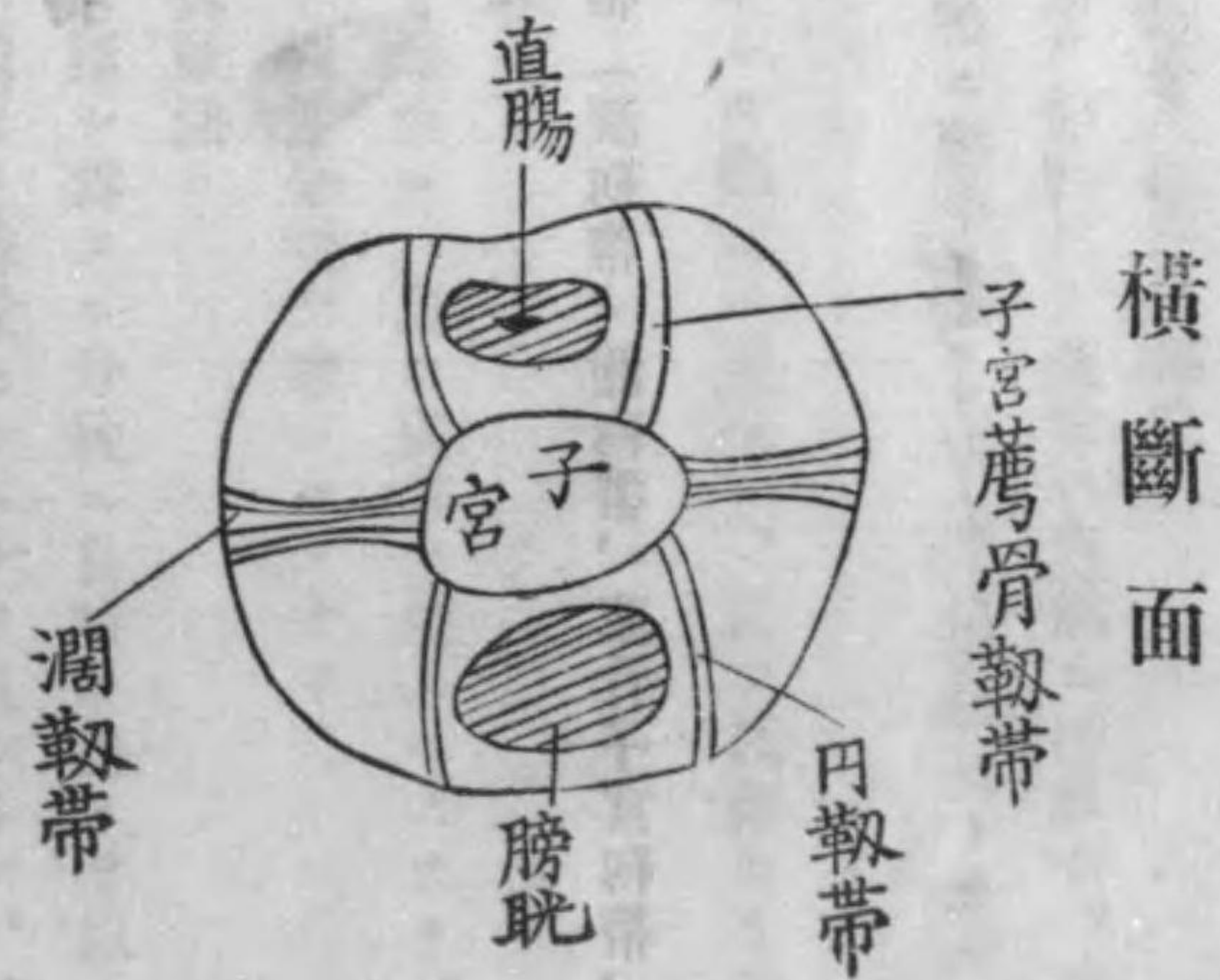
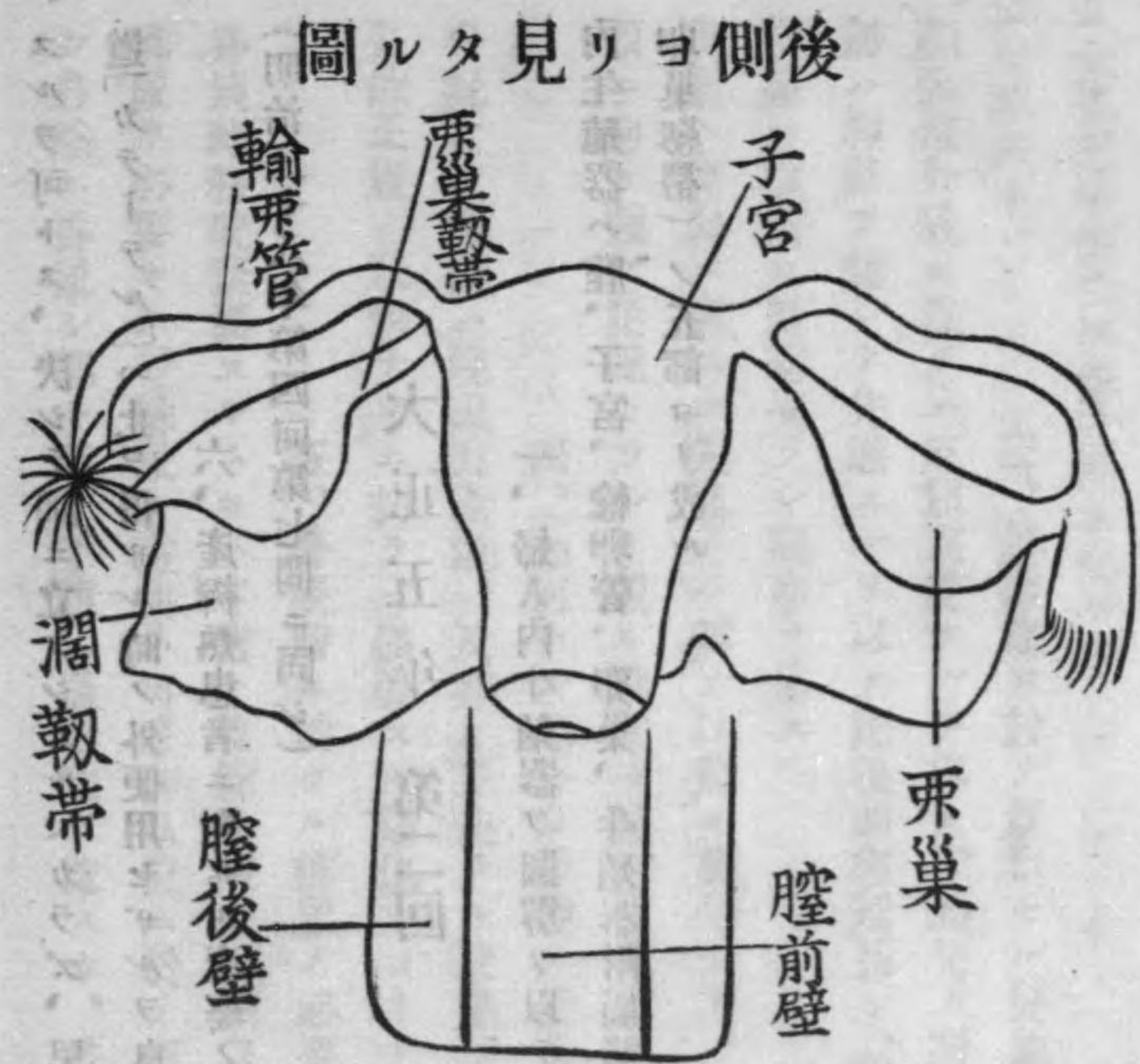
(明治三十八年第四回第七問ニ同シ)

### 大正五年 第二回

一、婦人内生殖器ヲ圖解ヲ以テ示セ

内生殖器ハ腔、子宮、輸卵管、卵巢、生殖器附屬諸靭帶(潤靭帶、圓靭帶、薦骨子宮靭帶、卵巢靭帶)ノ五部ヨリ成ル





後側ヨリ見るタル圖

横断面

二、胎胞トハ如何及効用

(明治四十四年第一回第三問ニ同シ)

三、乳母ノ撰擇法トモトモ、變シマテ来ス

(明治三十七年第二回第四問ニ同シ)

四、妊娠中ニ發スル浮腫ノ原因及徵候

妊娠後半期ニ至レバ増大セル子宮ノ爲メ、下大靜脈及骨盤内ヲ通過セル靜脈壓迫セラレテ、血行障害ノ下ニ血液ハ下肢ニ鬱滞シ、血液中ノ水分ハ血管外ニ滲出シテ周圍ノ組織ニ浸潤シ以テ浮腫ヲ惹起ス、主トシテ下肢又ハ陰唇ニ發スルヲ常トス

浮腫ヲ發スルトキハ其部ノ皮膚著シク緊張シ、指頭ニテ之ヲ壓スレハ暫時凹陷スルモ通常疼痛ヲ發セズ、而シテ其部ノ皮膚ハ蒼白色ヲ呈シ、種ノ光澤ヲ有ス、下肢及陰唇ノ浮腫高度ナルトキハ歩行ニ困難ヲ來スコトアルモ、適當ナル處置ニヨリ治スルモノナリ、殊ニ分娩後ニ於テハ自ラ消散スルヲ常トス

他ノ原因ニ因リテ來ル浮腫ハ妊娠ニヨリ來ルモノト其ノ徵候ヲ異ニス即チ妊娠性腎炎ニヨル浮腫ハ多クハ初メ顔面ヨリ來リ、次デ上肢及胸部ニ及ボシ、遂ニ全身ニ波

及シ且ツ著シク尿量ヲ減シ、尿中ニ蛋白ヲ証明ス  
心臟病ニヨリ來ルモノハ主トシテ下肢ニ發スルモ、本病ハ心悸亢進呼吸困難等ヲ訴フ  
脚氣ニヨリ來ルモノハ四肢ニ知覺麻痺ヲ發ス

五、第一顔面位ニ於ケル胎兒心音ノ聽取部位

第一顔面位ニ在、ハ胎兒心音ハ母體ノ右側ニ於テ臍ノ下方ニ聽取ス

六、胎盤殘留ノ原因及處置

(明治四十年第五回第六問ニ同シ)

### 大正六年 第一回

一、婦人骨盤ノ狀態

(明治四十一年第三回第一問ニ同シ)

二、如何ナル場合ニ乳汁ノ變化ヲ來スヤ

(明治四十年第一回第四問參照)

三、腹帶ノ効用

(大正三年第一回第二問參照)

四、妊娠中ニ於ケル生殖器出血ノ原因

(明治三十五年第一回第五問ニ同シ)

五、産出時ニ於ケル陣痛微弱ハ如何ナル危險ヲ來スヤ及其豫防法

(イ) 危 害、(明治三十八年第二回第六問(ロ)ニ同シ)

(ロ) 豫防法、(明治三十五年第一回第六問處置參照)

(大正二年第二回第六問ニ同シ)

### 大正六年 第二回

一、卵巢ノ位置及機能

(明治四十三年第一回第一問參照)

第二、第一骨盤端位ニ於ケル胎兒心音ノ聽取部位

第一骨盤端位ニ於テ胎兒心音ハ母體ノ左側大凡ソ臍ノ高サ、又ハ臍ヨリ稍上方ニ於テ聽取ス

三、梅毒ノ離床時期ハ何ヲ標準トシテ決定スルヤ  
(大正二年第一回第五問ニ同シ)

四、常習性流産ノ主ナル原因及ソレニ對スル産婆ノ注意

常習性流産ハ主トシテ母體ノ微毒ニ原因ス、結核モ亦常習性流産ヲ來ス、近來内分泌學說ノ進歩ト共ニ身體内ニ分泌セラル、諸種ノ「ホルモン」中陣痛ヲ催進シテ慣習性流産ヲ來スト云、妊婦ニシテ既往ニ流産又ハ早産等ヲナセシカ、或ハ淋巴腺腫脹シ或ハ陰部ノ潰瘍、皮膚ノ發疹其他微毒ノ症狀ヲ發見スルトキハ、速ニ醫師ノ診療ヲ受ケシムベシ、尙ホ妊婦ノ微毒ハ決シテ之ヲ他人ニ口外スベカラズ、時トシテ之ガ爲メニ一家ノ平和ト幸福ヲ損害セシ例少カラズ、其他特ニ注意スベキハ微毒性ノ婦人及小兒ニ用ヒタル灌腸器其他ノ器械ハ嚴重ナル殺菌消毒ヲナスコトヲ忘ルベカラズ

五、初生兒身體清潔法ニ對スル注意

全身ノ清潔法ハ皮膚病ノ豫防并ニ身體ノ發育上最モ必要ナリ、殊ニ小兒ハ頻時ノ大小便ノ排泄ニ依リテ常ニ不潔トナリ易ク、爲メニ糜爛其他種々ノ皮膚病ニ罹リ易キヲ以テ、沐浴以外時々臀部、股間、外陰部等ヲ丁寧ニ清拭シテ亞鉛華澱粉ヲ撒布シ、衣服襪襪及ビ臥床等ノ濕

潤セルモノハ乾燥シテ温暖ナルモノト交換スベシ

小兒ノ冷水摩擦ハ一年以下ノモノ及虛弱ナルモノニハ却テ害アルヲ以テ禁ズ、但シ浴湯ノ溫度ヲ漸次低減スルハ之ニヨリテ小兒ノ皮膚ヲ強固ナラシメ、感冒ヲ防グノ効アリ

六、遺傳微毒ノ特徴

(明治三十九年第四回第八問參照)

大正七年 第一回

一、羊水ノ効用

(明治四十一年第二回第二問ニ同シ)

二、會陰保護ノ際仰臥ト側臥トノ得失如何

會陰保護ハ兒頭ノ急速ナル娩出ヲ厭フガ故ニ側臥位ハ此ノ目的ニ副フノ利益アリ、側臥位ノ場合ニハ腹壓ヲ緩和セシム効アリ、且會陰部ヲ監視スルニ便ナリ、然シ乍ラ產科手術ノ際ニハ用ユル能ハザル不便アリ、又後産期ニ胎盤排出時ニ不便ナリ、仰臥位ノ時ニハ此等ノ不便ヲ償フ事ヲ得、仰臥位ハ側臥位ヨリモ產出力強ク從テ兒頭ノ娩出急ナルノ不利アリ



三、離乳シ得可キ小兒ノ最低年齢

(明治三十八年第二回第四問(ロ)ニ同シ)

四、死産兒ノ状態

(明治四十年第四回第五問ニ同シ)

五、妊婦ノ淋毒ハ如何ナル危害アリヤ

(明治四十一年第二回第五問参照)

六、三「プロセント」ノ石炭酸水一升ヲ調製スルニハ如何ニスルヤ

水一升ヲ千八百瓦ト算定ス、熔融シタル石炭酸五十四瓦ヲ取り約千瓦ノ水ニ徐々ニ注入シ、絶ヘズ攪拌或ハ振盪シ七百四十六瓦ノ水ヲ以テ石炭酸ヲ秤取リタル液量器ヲ能ク洗ヒ洗液ヲ初メノ溶液中ニ混シ、更ニ充分ニ攪拌或ハ振盪ス或ハ一升ヲ百勺トス、百勺ノ石炭酸水ノ中ニ二勺ノ石炭酸ヲ含ルヲ如ク製ススベシ

### 大正七年 第二回

一、胎盤ノ機能

(明治四十年第二回第一問参照)

二、分娩時ニ於ケル産婦ノ位置

(明治四十四年第二回第二問ニ同シ)

三、初生兒臍「ヘルニア」豫防法

(明治三十四年第二回第八問参照)

四、母乳ノ効能

(大正三年第二回第三問ニ同シ)

五、産褥熱ノ徴候

(明治三十四年第二回第七問ニ同シ)

六、法規上守ルベキ産婆ノ主ナル心得

(1)、産婆名簿ニ登録ヲ受ケサレバ産婆ノ業ヲ取ルヲ得ズ

(2)、住居其他身上ノ異動ハ直ニ届出ヲ要ス

(3)、産婆ハ自ラ診療的處置ヲナスヲ得ズ、但シ臨時應急ノ手當ハ此限リニアラズ

- (4)、産婆ハ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用ヒ、藥品ヲ投與シ又ハ指示スルヲ得ズ、但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此限リニアラズ
- (5)、産婆名簿ニ登録ヲ受ケザルモノニ業務ヲ專任スルヲ得ズ
- (6)、自ラ檢案セズシテ死産証書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルヲ得ズ
- (7)、他人ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ隨胎セシメタルトキ及之ニ因テ婦女ヲ死傷セシメタルトキハ懲役ニ處セラル
- (8)、囑託又ハ承諾ヲ受ケズシテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ及死傷セシメタルトキ亦懲役ニ處セラル
- (9)、業務上ノ秘密ヲ故ナク漏洩シタルトキハ懲役又ハ罰金ニ處セラル
- (10)、故ナク妊婦ノ招キニ應ビザルトキハ罰セラル
- (11)、過失ニ依リ又ハ必要ナル注意ヲ怠リ人ヲ死傷シタルトキハ罰セラル

大正八年 第一回

一、成熟卵トハ如何

- (明治四十四年第二回第一問ニ同シ)
- 二、妊娠ノ三確徴
- (明治四十一年第三回第二問(イ)ニ同シ)
- 三、胎兒ノ出產ハ如何ナル力ニヨルカ
- (大正二年第二回第三問ニ同シ)
- 四、「グレーテ氏」胎盤壓出法ハ如何ナル場合ニ施スヤ及其方法
- (明治三十九年第二回第三問ニ同シ)
- 五、初乳ノ性状及初乳ヲ小兒ニ飲用セシムル利害
- (明治四十年第三回第三問、同四十一年第一回第四問参照)
- 六、妊婦、産婦ノ失神、又ハ假死ヲ起スルノ原因及處置
- (明治四十一年第四回第六問ニ同シ)

大正八年 第二回

一、婦人骨盤ノ構造及機能

(明治三十八年第二回第一問、同四十一年第二回第一問ニ同シ)

二、妊娠ニ依テ起ル乳房ノ變化

乳房ハ妊娠第二ヶ月ノ頃ヨリ漸次ニ増大シ、妊娠末期ニ至レバ著シク腫大シ硬キ結節狀又ハ索狀物ヲ觸ル、之レ乳腺ノ増殖シタルナリ、之ヲ壓搾スレバ稀薄水様ノ乳汁ヲ分泌ス、之ヲ初乳ト云フ、乳量モ亦着色シテ赤色或ハ黒褐色ヲ呈シ「モントゴメリー氏」腺腫起ス、又乳房皮下ノ靜脈ハ怒張シ青色ノ線條トシテ透見シ得ルニ至リ且ツ一般ニ過敏性ヲ増加スルモノナリ

(明治四十一年第四回第三問ニ同シ)

三、定期産、流産、早産、遲産ノ區別

四、陣痛時ニ於ケル子宮ノ狀態

(大正三年第一回第四問ニ同シ)

五、「クレレデ氏」眼疾豫防法

初生兒ヲ乾キタル浴巾ニ纏ヒタルマ、仰臥セシメ、嚴重ニ消毒シタル助産婦ハ先ツ左手ノ拇指ト示指トヲ以テ兒ノ上下ノ眼瞼ヲ徐カニ開ク、産婆ハ兒頭ノ向側ニ坐スベシ、斯クテ細ク

開キタル眼瞼ノ中央ニ當リテ透明ナル角膜ヲ見ルベシ、此ノ角膜ノ中央ニ新ニ製(調製後三週以内ノモノ)シタル五十倍(二%)硝酸銀溶液ノ唯一小滴ヲ點入ス、而シテ此ノ點眼ヲナシタル後二十四時間ハ何等ノ處置ヲ施スベカラズ、此ノ一小滴ハ長サ五寸太サ直徑約一分位兩端ヲ圓滑ニシタル硝子棒ヲ取り其ノ一寸三、四分ヲ硝酸銀水ノ中ニ浸シ、垂直ニ引キ上ゲ其ノ棒ノ下端ニ懸水セル小滴ヲ點滴シ決シテ硝子棒端ヲ角膜ニ接スベカラズ

二%硝酸銀水ニテハ角膜刺戟症狀強キヲ以テ近來變法トシテ、一%硝酸銀水ヲ普通ノ「ゴム」帽付點眼瓶ニテ一滴ヲ點滴スル法アリ、又十%「ブタルゴール」液數滴ヲ點滴シ、或ハ四%「ソフオール」水溶液數滴ヲ點滴スル變法アリ

六、法規上守ルベキ産婆ノ主ナル心得

(大正七年第二回第六問ニ同シ)

大正九年 第一回

一、卵巢ノ機能

(明治四十三年第一回第一問ニ同シ)

二、妊娠末期ニ於ケル初妊婦ト經妊婦トノ主ナル區別

(明治四十五年第一回第二問ニ同シ)

三、惡露ノ注意事項

惡露ハ產褥第三日頃迄血性惡露ヲ排出スルモ第四日頃ヨリハ稀薄淡赤色トナリ、一種ノ甘性ノ臭氣ヲ帶ブ、即チ漿液性惡露ヲ排出シ第十日頃迄持續ス、其ノ以後ニ於テハ帶黃白色トナリ其質再ビ粘稠トナル、即チ白色惡露ニシテ第三週ニ至リ量ヲ減シ、第五週ニ至リ全ク盡ク、然ルニ此ノ經過ヲ取ラズ、惡露惡臭ヲ放チ又長ク血液ヲ混シ、又其ノ量多キ時ハ產褥ノ經過異常ノ疑ヲ以テ注意スルヲ要ス、又惡露ノ取扱ヒ不潔ナルトキ即不潔ナル手指、布片等ヲ以テ取扱フ時ハ細菌ヲ腔内ニ輸入シ產褥熱ノ原因ヲ來スヲ以テ注意ヲ要ス

四、三十年以上ノ初妊婦ハ何故陣痛微弱ヲ起シ易キカ

三十年以上ノ初妊婦ハ左ノ原因ニヨリ子宮ノ收縮ヲ妨グ遂ニ陣痛微弱ヲ起ス、即チ

(イ) 子宮頸部硬固ノ爲メ子宮口ノ狭窄ヲ來タス

(ロ) 腔壁硬固ニシテ腔窄狹ヲ來タス

(ハ) 正規陣痛又ハ過劇陣痛ヲ惹起シ之レガ爲メニ却テ後ニ疲勞性微弱陣痛トナルコトアリ

五、離乳方法、及最低年齢血水對テ

(明治四十一年第三回第五問、明治三十八年第二回第四問ニ同シ)

六、臍帶異常ノ種類

臍帶過短、臍帶過長、臍帶真結節、臍帶假結節、臍帶ノ纏絡、臍帶ノ捻轉、臍帶ノ卵膜附着、臍帶血管ノ狭窄

大正九年 第二回

一、胎兒ハ如何ニシテ營養分ヲ得ルヤ

(明治三十八年第一回第一問ニ同シ)

二、分娩ノ種類

時期ニ關シテハ

定期産、遲産、流産、早産ニ分ツ

經過ニ開シテハ

正規分娩、異常分娩ニ分ツ

五、母乳ノ効能

(大正三年第二回第三問ニ同シ)

六、双胎妊娠ノ確徴

(明治四十四年第一回第四問ニ同シ)

五、如何ニセバ初産兒膿漏眼ヲ豫防シ得ルヤ

(明治三十四年第二回第八問ニ同シ)

六、産褥婦ニ對スル主ナル注意事項

(イ) 褥婦ノ自覺徵候及發熱ノ有無

睡眠ノ可否、食慾ノ良否、口渴ノ有無ヲ問診シ脈搏、頻數ナラザルヤ、體温ヲ檢スベシ

(ロ) 乳房腹部及子宮ノ状態

乳頭ニ損傷ナキヤ、腹部ヲ按シテ疼痛及膨滿(産褥熱及便秘ノ徵)ノ存否、及子宮底ノ高

ヲ知ルベシ、其他子宮及子宮ノ兩側部(潤腸帶)ヲ輕ク押壓シ其疼痛ヲ訴フルコトナキヤ

ヲ檢ス

(ハ) 出血ノ有無及多少、惡露ハ純血ナルカ、血水様ナルカ或ハ膿汁様ナルカヲ檢シ且ツ其

(臭氣ノ有無ヲ檢スベシ)

## 大正十年 第一回

一、流産ノ僻アル婦人ノ妊娠中運動ニ對シ最モ注意スベキ時期

胎盤形成ノ前後即チ妊娠第三ヶ月乃至第四月ハ最モ注意スベキ時期ナリ

二、腹帶ノ利害

腹帶ノ利益、(大正六年第一回第三問参照)

害、腹帶ニテ胸部腹部ヲ緊縛スルハ害アリ、之レガ爲メニ卒倒ノ原因ヲナスコトアリ、又腹

部緊縛ノ爲メニ腹壁ノ彈力ヲ減ジ、僅カノ衝突等ニテ外傷或ハ胎兒ニ危害ヲ蒙ルコトアリ、

又幅狭キ腹帶ハ保温ノ平衡或ハ血行ノ平衡ヲ失シテ反テ害アリ

三、哺乳時間

(明治三十八年第二回第四問(イ)ニ同シ)

四、不良ナル惡露トハ如何及其手當

(イ) 産褥ノ初期約三日間ハ血性惡露ト稱シ出血ヲ來スヲ常トスレドモ、若シ異常ノ場合ニ

於テハ其量非常ニ多量ニシテ凝血塊ヲ混シ一週乃至二週以上持續スルコトアリ

(ロ) 產褥ノ終リニ至リ離床期ニ於テ突然出血スルコトアリ

(ハ) 一旦惡露ノ閉止シタル後、突然出血スルコトアリ

(ニ) 惡露ニ腐敗性ノ惡臭ヲ放ツコトアリ、之レ多ク產褥熱ニ於テ見ルトコロナリ

(ホ) 惡露ノ過早ニ閉止スルコトアリ、或ハ之ニ反シ頗ル永ク持續スルモノアリ

手當、

(イ) 凡テ醫師ノ診療ヲ受クベキモノナルモ、產婆トシテハ產褥ノ初メニ於テ著シキ出血性

惡露アルトキハ、子宮ノ收縮不全ニ依ルモノナレバ此際子宮底ノ輪狀摩擦ヲ行ヒ、氷囊ヲ

貼スルヲ良シトス、但シ此際軟部産道ノ損傷ヨリ來ル出血ニ注意スルヲ要ス

(ロ) 甚シキ惡臭ヲ放ツ時ハ假令熱ナキ場合ト雖モ、此惡露ノ中ニハ有毒細菌ヲ含有スルヲ

以テ何時發熱スルヤモ計ラレズ、故ニ一層消毒法ニ注意スルヲ要ス

(ハ) 出血水ク持續スルモノハ之亦子宮ノ收縮不全ニヨリ、子宮内創面ノ未ダ治癒セザルモ

ノナレバ可成身體ヲ安靜ニ保タシムルヲ要ス

(ニ) 其他何レノ場合ヲ問ハズ不良ノ惡露ヲ認ムルトキハ、速ニ醫治ヲ受ケシム

### 五、狹窄骨盤ノ種類

單純扁平骨盤、佝僂病性扁平骨盤、骨軟化病性狹窄骨盤、橫徑狹窄骨盤、斜徑狹窄骨盤、骨  
癭性狹窄骨盤、一般平等狹窄骨盤

### 六、初生兒ニ發生シ易キ疾病ノ名稱

初生兒假死、初生兒膿漏眼、皮膚、羊膜臍、臍帶「ヘルニア」、臍出血、臍炎、臍部ノ糜爛、  
臍血管炎、臍脫腸、臍息肉、初生兒「メレナ」、初生兒鞏硬病、初生兒破傷風、初生兒丹毒、  
初生兒先天性微毒、初生兒嘔吐、下痢、便秘、皮膚ノ糜爛、水泡疹、汗疹、濕疹、糠枇疹、  
剝脫性皮膚炎、鵝口瘡、初生兒黃胆、初生兒乳腺炎、乳兒脚氣等ナリ

## 大正十年 第二回

### 一、骨盤腔ヲ構成スル骨ノ名稱及狀況如何

(明治四十一年第三回第一問參照)

一、妊娠末期ニ於ケル初妊婦ト經妊婦トノ鑑別

(明治四十五年第一回第二問ニ同シ)

三、初生兒臍「ヘルニア」豫防法

(明治三十四年第一回第八問参照)

四、産褥婦ノ乳房ノ保護法

産褥婦ノ乳房ハ之ヲ不潔ニ取扱フ時ハ、乳頭ニ糜爛ヲ生シ次テ細菌ノ侵入ニヨリテ乳腺炎ヲ發シ小兒ノ口内、胃腸ノ疾患ヲ誘發スル等母兒兩體ノ健康ヲ害スルニ至ルヲ以テ、常ニ清潔法ヲ嚴守セシム、即チ授乳前ニ $2\%$ 硼酸水、微温湯石鹼ヲ以テ乳頭ヲ洗滌シ、或ハ「アルキホル」ヲ以テ清拭ス、授乳後ハ再ビ前法ヲ行ヒ柔軟ナル布片ヲ以テ掩ヒ其摩擦ヲ避ク

乳汁分泌減少スルトキハ、多量ノ滋養物ヲ與ヘ且ツ哺乳ヲ廢スルコトナク、絶ヘズ乳頭ヲ刺激シ、又時々乳房「マッサージ」ヲ行フ

乳房緊満シテ疼痛アルトキハ褥婦ノ飲食ヲ稍減量シ、且ツ便通ヲ促シ、氷罨法ヲ行ヒ提乳帶ヲ以テ乳房ヲ提擧ス、此際妄リニ乳汁ヲ搾リ出ス等ノ事ヲ爲スベカラズ、一時緩和スルガ如キモ却テ緊満分泌ヲ増スコトアリ

五、惡阻ニ胃痙攣ヲ併發シタル時ハ如何ナル應急手當ヲ行フヤ

惡阻ニ胃痙攣ヲ併發シタル時ハ、胃部温卷法ヲ施シ身體及精神ヲ安靜ナラシメ、醫ノ來診ヲ

待ツベシ

六、死産証書ノ様式ヲ示セ

(大正六年第一回第六問ニ同シ)

大正十一年 第一回

出生マ行

(明治三十八年第一回第一問ニ同シ)

一、胎兒ハ如何ニシテ營養分ヲ得ルヤ

(明治三十八年第三回第二問ニ同シ)

二、分娩ノ難易ハ何ニヨリテ豫知スルヤ

(大正三年第二回第三問ニ同シ)

三、母乳ノ効能

四、後産期ニ於ケル母體ニ對スル注意事項

事項ノ主ナルモノハ左ノ如シ

(イ) 産婦ノ腹上ニ一手ヲ貼シ子宮ノ能ク收縮セルヤ否ヤ、又ハ尙一兒ノ殘存セザルヤヲ檢  
ス

(ロ) 屢外陰部ノ壓抵布ヲ檢シテ出血ノ多少ヲ檢ス、出血ハ最モ危険ナリ、注意ヲ怠ルベカ  
ラス

(ハ) 胎盤剝離ニ就テ注意ヲ要ス、即チ分娩直後腔口部ニ於ケル臍帶ニ目標ヲ附シ、腔内ヨ  
リ少量ノ出血アリ、且ツ臍帶ノ目標外ニ出ヅルコト約十五仙迷ニ至ラバ胎盤剝離シタルモ  
ノト知ルヲ得、若シ小兒産出後三十分餘ヲ經ルモ尙胎盤ノ下降セザルトキハ産婦ニ排尿ヲ  
命ズルカ、或ハ導尿ニヨリテ膀胱ヲ空虚ニナシ以テ子宮ノ輪狀摩擦ヲ行ヒ且ツ産婦ニ努責  
ヲ命スレバ多クハ目的ヲ達ス、若シ猶ホ娩出セザルコト一時間餘ニ至レバ「クレーデ氏」壓  
出法ヲ行フ

五、異狀骨盤ノ種類

(明治三十八年第四回第五問ニ同シ)

六、妊婦ノ淋毒ハ如何ナル危害アリヤ

(明治四十一年第二回第五問参照)

全 三十八年 實地試験

實地試験ハ妊婦、模型及器械等實物ニ就テ行ハレタリ、問題ニ對シ一々解答ヲ附スルハ紙數  
ニ限リアルヲ以テ成シ得ズ、單ニ問題ノミヲ掲クルコト、ナシタリ

全 三十五年 實地試験問題

全年 第四回 問題

明治三十四年第一回

全 第二回 一、頭蓋位、骨盤端位

全 第二回 二、仰臥、側臥ニ於ケル會陰保護術、橫位

全 第二回 一、内診時産婆ノ消毒法

全 第二回 二、分娩後臍帶ノ處置

全 第二回 二、不全足位分娩

全 第二回 二、後頭位

全 第二回 一、後頭位



- 全 三十八年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、內診法及尾骶位ノ手術
  - 三、分娩時及產褥婦ノ處置
  - 四、足位
  - 五、足位ニ對スル產婆の處置
  - 六、後頭位
  - 七、分娩ニ必要ナル準備
  - 八、足位
  - 九、足位ノ產婆の處置
  - 十、肩胛產出ノ處置
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、骨盤端位ノ診斷
  - 十三、初生兒人工蘇生法
  - 十四、肩胛娩出法
- 全 三十七年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷
- 全 三十六年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、內診法及尾骶位ノ手術
  - 三、分娩時及產褥婦ノ處置
  - 四、足位
  - 五、足位ニ對スル產婆の處置
  - 六、後頭位
  - 七、分娩ニ必要ナル準備
  - 八、足位
  - 九、足位ノ產婆の處置
  - 十、肩胛產出ノ處置
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、骨盤端位ノ診斷
  - 十三、初生兒人工蘇生法
  - 十四、肩胛娩出法
- 全 三十九年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷
- 全 四十一年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷
- 全 四十一年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷
- 全 四十一年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷
- 全 四十一年第一回
  - 一、分娩後臍帶ノ處置
  - 二、妊婦診察法
  - 三、足位娩出法
  - 四、內診法
  - 五、橫位ノ診斷並ニ取扱法
  - 六、斜位ノ診斷並取扱法
  - 七、初生兒假死ノ救急法
  - 八、肩胛產出法
  - 九、初生兒分娩後ノ取扱法
  - 十、肩胛產出法
  - 十一、會陰保護法
  - 十二、臀位
  - 十三、會陰保護法
  - 十四、顏面位ノ診斷

- 全 四十年第一回 二、臍帶結紮法
- 全 第二回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第三回 二、顔面位ノ診斷
- 全 第四回 二、妊婦ノ診察法
- 全 第三回 二、肩胛娩出法
- 全 第三回 一、妊婦診察法
- 全 第三回 二、初生兒假死ノ救急法
- 全 第四回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第四回 二、頭蓋位ノ診斷
- 全 第五回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第三回 二、臀位ノ診斷
- 全 四十年第一回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第二回 二、足位娩出法
- 全 第二回 一、胎盤盤ノ取出

- 全 三 第一回 二、肩胛娩出法
- 全 第三回 一、臍帶ニ就テノ取出
- 全 第二回 二、會陰保護術
- 全 第四回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第四回 二、初生兒假死救急法
- 全 四十二年第一回 一、消毒方法
- 全 第二回 二、顔面位ノ診斷
- 全 第二回 一、妊婦ノ腹部觸診法
- 全 第三回 二、分娩月ノ鑑定
- 全 第三回 一、妊婦ノ診察法
- 全 第三回 二、胎兒ニ就テノ取出
- 全 第三回 一、妊婦ノ診斷法
- 全 四十四年第一回 二、產婆器械ノ名稱、用法及消毒法
- 全 第二回 一、妊婦診斷法

全 四十四年第一回

二、產婆用器具使用法

一、妊婦ノ診斷

二、消毒藥ノ調製法

一、初生兒人工蘇生法

二、臍帶切離法及初生兒取扱法

一、妊娠月ノ診斷

二、肩胛娩出法

一、妊婦ノ診斷

二、消毒ノ効力及消毒藥ノ調製法

一、分娩月ノ診斷

二、消毒方法

一、分娩月ノ診斷

二、初生兒假死ノ救急法

一、顔面位ノ診斷

全 三年第一回

全 三年第二回

全 三年第三回

全 三年第四回

全 三年第五回

全 三年第六回

全 三年第七回

全 三年第八回

全 三年第九回

全 三年第十回

全 三年第十一回

全 三年第十二回

全 三年第十三回

全 三年第十四回

全 三年第十五回

全 三年第十六回

全 三年第十七回

全 三年第十八回

全 三年第十九回

全 三年第二十回

全 三年第二十一回

全 三年第二十二回

全 三年第二十三回

全 三年第二十四回

全 三年第二十五回

- 二、消毒方法
- 一、消毒方法
- 二、妊娠月ノ診斷
- 一、妊娠ノ診斷
- 二、消毒藥ノ種類及應用
- 一、妊婦ノ診斷
- 二、消毒ニ就テ
- 一、肩胛娩出ニ就テ
- 二、初生兒假死人工呼吸法ニ就テ
- 一、產婆用器械ノ名稱及用途
- 二、分娩月ノ診斷
- 一、妊娠月ノ診斷
- 二、驗温器使用法ト消毒方法
- 一、妊婦ノ診斷

|   |   |      |                   |
|---|---|------|-------------------|
| 全 | 七 | 年第一回 | 二、臍帶ノ結紮法          |
| 全 | 六 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 六 | 年第一回 | 二、初生兒假死蘇生法        |
| 全 | 六 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 六 | 年第一回 | 二、初生兒假死蘇生法        |
| 全 | 八 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 八 | 年第一回 | 二、產婆ノ携帶スル器械ノ名稱及用途 |
| 全 | 八 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 八 | 年第一回 | 二、産婆ノ携帶スル器械ノ名稱及用途 |
| 全 | 九 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 九 | 年第一回 | 二、産婆ノ携帶スル器械ノ名稱及用途 |
| 全 | 九 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 九 | 年第一回 | 二、産婆ノ携帶スル器械ノ名稱及用途 |
| 全 | 十 | 年第一回 | 一、妊婦ノ診斷           |
| 全 | 十 | 年第一回 | 二、産婆ノ携帶スル器械ノ名稱及用途 |

|   |      |     |                 |
|---|------|-----|-----------------|
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 一、妊婦ノ診斷         |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 二、産婆用器具ノ名稱及消毒方法 |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 一、妊婦ノ診斷         |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 二、産婆用器具ノ名稱及消毒方法 |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 一、妊婦ノ診斷         |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 二、産婆用器具ノ名稱及消毒方法 |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 一、妊婦ノ診斷         |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 二、産婆用器具ノ名稱及消毒方法 |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 一、妊婦ノ診斷         |
| 全 | 二十一年 | 第一回 | 二、産婆用器具ノ名稱及消毒方法 |

## 附 錄

### 產婆に關する法規

#### 一 產婆規則

(明治三十二年七月) (大正六年七月勅令第七  
勅令第三百四十五號) (十二號ヲ以テ一部改正)

第一條 產婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ產婆名簿ニ登録ヲ受  
クル事ヲ要ス

一 產婆試験ニ合格シタル者

二 内務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三 外國ノ學校若クハ講習所ヲ卒業又ハ外國ノ產婆免許ヲ得タル者ニテ内務大臣ノ適當ト  
認メタルモノ (大正六年改正)

第二條 產婆試験ハ地方長官之ヲ施行ス

第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタルモノニ非ザレバ產婆試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

產婆名簿ニ登録ヲ受ケントスルモノハ產婆試験合格證書又ハ卒業證書又ハ免許證ヲ添ヘ地  
方長官ニ願出ツベシ產婆名簿ノ登録ニ異動ヲ生ジタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正  
ヲ願出ツベシ產婆名簿ノ登録事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條 產婆其住所ヲ移シタル爲メ管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆  
名簿取消シノ登録ヲ願出デ後ノ管轄地方廳ニ產婆ノ登録ヲ願出ツベシ

前項ノ登録換ヲ爲サザル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 產婆廢業ルタル時ハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツベシ

產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆取  
消ノ登録ヲ願出ツベシ

第七條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認メタルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシ  
ムベシ自ラ其處置ヲナスコトヲ得ズ但シ臨時應急ノ手當ハ此限ニ非ズ

第八條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用ヒ藥品ヲ投與  
シ又ハ之ガ指示ヲ爲スコトヲ得ズ

但消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此限ニ非ズ

第九條 産婆ハ産婆名簿ニ登録ヲ受ケザル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ズ

第九條ノ二 産婆ハ自ラ檢案セズシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交附スルコトヲ得ズ

第十條 産婆ニシテ墮胎ノ罪其他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得

産婆名簿登録前ニ犯シタル罪ニ就テモ亦同ジ

第十一條 試験ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其試験ヲ無効トスルコトヲ得若シ既ニ登録ヲ受ケタルトキハ其登録ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ヅル者ニシテ試験又ハ登録ノ以前墮胎ノ罪其他業務ニ關スル禁錮以上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シタル者又ハ試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ許可セザルコトヲ得

第十四條 産婆ニシテ二箇年間其業ヲ營マザルトキ又ハ瘋癲白知不具癘疾ト爲リ其業ヲ營ムニ堪ヘズト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十五條 産婆名簿ノ登録、登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正並ニ産婆業ノ禁止又ハ停止及解除ハ地方長官之ヲ告示スベシ

第十六條 左ニ掲ゲタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 産婆名簿ニ登録ヲ受ケズシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 二 産婆名簿登録ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 三 産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 四 第三ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
- 五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條 第四條第二項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其業ヲ營ム者ハ本令施行後六ヶ月以内ニ地方長官ニ願出産婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ產婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歷ニヨリ業務ノ地域及五箇年以内ニ期限ヲ定メ產婆ノ業務ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ產婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ產婆名簿ニ登録スル限ニ非ズ

第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 二 產婆名簿登録規則 (明治三十二年九月 內務省令第四十八號)

第一條 產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登録スベシ

一 登録番號登録年月日

二 族籍氏名年齢住所(外國人ナルトキハ其國籍)

三 產婆規則第一條規定ノ資格ヲ取得シタル年月日並ニ同上第一ノ資格ニ付テハ試験ヲ受ケタル地方廳名

四 開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スル者又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス)

五 業務ニ關スル犯罪禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪(年月日事由)

六 產婆業ノ禁止停止解除(同上)

七 名簿取消ノ年月日事由

第二條 產婆名簿ハ別記様式ニヨリ調製スベシ(様式略ス)

第三條 產婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出デ產婆名簿ニ登録ヲ受クベシ

第四條 產婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ產婆名簿ノ取消ノ登録ヲ爲シ其登録事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其旨通知スベシ

後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ本人ノ願出ニ依リ直ニ產婆名簿ニ登録ヲ爲スベシ但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ告知ヲ俟テ又ハ之ガ照會ヲ經タル後登録ヲ爲スベシ

第五條 產婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登録ヲ爲ストキハ其部分ニ朱線ヲ劃シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スベシ

第六條 產婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者謄本手数料金五拾錢ヲ納付スルトキハ登録ノ謄本ヲ受ケル事ヲ得謄本手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スベシ

三 產婆試驗規則

(明治三十九年九月  
內務省令第四十七號)

第一條 產婆試驗願出ノ期日舉行ノ期日及ビ場所ハ地方長官之ヲ告示ス

第二條 試驗科目ハ左ノ如シ

學 說

- 第一 正規妊娠分娩及其取扱法
- 第二 正規産褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法
- 第三 異常ノ妊娠分娩及其取扱法
- 第四 妊婦産婦褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及産婆心得

實 地

第一 實地試驗若クハ模型試験

第二條 學說試験ニ合格シタル者ニ非レバ實地試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第四條 學說試験ニ合格シ實地試験ニ落第シタル者又ハ實地試験ヲ受ケザル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルヲ得

第五條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ産婆學校産婆養成所等ノ卒業證書若クハ修業證書又ハ産婆若クハ醫師二名ノ證明アル履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヅベシ但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスルモノハ學說試験合格證ヲ添ヘ願出ヅベシハ補遺ニ詳カニ記シタルニ出願地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セズ其願書ヲ受理シ許可セザルトキハ之ヲ却下ス

第六條 産婆試験ヲ願出ヅル者ハ收入印紙ヲ以テ試験手数料金壹圓ヲ納付スベシ但納付シタル手数料ハ之ヲ返還セズ

第四條ニ依リ實地試験ノミヲ願出ル者ト雖本條ノ手数料ヲ納付スベシ但納付シタル第七條 地方長官ハ學說試験及實地試験ニ合格證書ヲ交付シ學說試験ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

第八條 地方長官ハ受験人心得其他試験場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試験場ニ揭示スベシ當該官吏ハ受験人心得其他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命ズルコトヲ得



注意 出願ノ際六ヶ月以内ノ戸籍謄本又ハ抄本竝ニ六ヶ月以内ニ寫シタル寫眞ヲ添附スルヲ要スルコトアルベシ(編纂者識す)

### 産婆試験規程

(明治三十三年六月  
三重縣告示第九十六號)

第一條 産婆試験ヲ受ケムトスル者ハ書式ニ從ヒ試験願書ニ履歷書(實地試験ニアリテハ學說合格證明書)戸籍謄本及寫眞ヲ添へ知事ニ差出スヘシ

寫眞ハ試験出願前六ヶ月以内ニ撮影シタルモノニシテ其ノ裏面ニハ撮影年月日及族稱氏名ヲ記載スヘシ但試験出願前一ケ年以内ニ寫眞ヲ差出シタルコトアル者ハ更ニ之ヲ差出サルモ妨ナシ

第二條 受験人ハ試験期日及場所ノ告示アリタルトキハ當日午前八時迄ニ指定ノ場所ニ出頭名刺(裏面ニ現住所又ハ宿所ヲ記ス)ヲ差出スヘシ官ニ出頭シテ出願書ニ對シテ署名スルコトアル者ハ午前九時ヨリ午後三時迄ノ間ニ於テ施行ス但シ臨時終始ノ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 試験委員ハ受験人名簿ヲ製シ各受験人番號ヲ定メ之ヲ受験人ニ告知ス

第五條 受験人ハ試験委員ノ指揮ニ從ヒ各自ノ番號順ニ着席スヘシ

第六條 受験人ハ筆墨硯ヲ持參スヘシ

第七條 受験人ハ書籍及參考品ヲ携帶シテ試験場ニ入ルヲ許サス

第八條 受験人ハ試験場ニ於テ互ニ談話シ又ハ物品ヲ授受スルコトヲ得ス

第九條 試験場ニ於テハ受験人ノ番號ヲ用ヒ其ノ氏名ヲ稱スヘカラス

第十條 受験人ハ試験委員ノ許可ナクシテ試験中其ノ席ヲ離ルヘカラス

第十一條 不正ノ方法ヲ以テ合格シタル者ハ其ノ効ナキモノトス

第十二條 試験場ニ於テ受験人不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ試験委員ハ其ノ受験人ニ退場ヲ命ズルコトアルヘシ(了)

### 産婆試験願

(紙美濃紙  
願書一通)

私儀本年何月何日執行ノ産婆試験相受度候間御試験被成下度別紙履歷書戸籍謄本及寫眞相添此段奉願候也

年 月 日

其 河 越 縣

第 〇 〇 〇 〇

此項本願書... 住 所 族 籍 氏 名 印

產婆實地試驗願

私儀本年何月何日執行ノ產婆實地試驗相受度候間御試驗被成下度別紙戶籍謄本寫真及學說試驗合格證明書相添此段奉願候也

年 月 日 住 所 族 籍 氏 名 印  
履 歷 書

住 所 族 籍 氏 名 印

前書ノ通相違無之ニ付此段証明仕候也  
一、何年何月ヨリ何所何某ニ從ヒ何年何月マデ何年何ヶ月間何學修業  
一、何年何月ヨリ何年何月マデ何年何ヶ月間何某ニ就キ何々  
一、賞 罰 有 無

住 所 族 籍 氏 名 印  
住 所 旅 籍 產婆(醫師) 氏 名 印

刑法摘要

秘密ヲ犯ス罪

第三百三十四條 醫師藥劑師藥種商產婆辯護士公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタル時ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタル事ニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタル時又同ジ  
第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタルモノハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之レヲ論ズ  
第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタルモノハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタルモノハ三年以下ノ禁錮又

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルモノハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十四條 醫師產婆藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケズ又ハ其承諾ヲ得ズシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害罪ニ比較シ重キニ從テ處

斷ス

警察犯處罰令摘要

(明治四十一年九月二十九日  
內務省令第十六號)

第二條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

六 新聞紙雜誌其他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタルモノ

十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ若クハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル

モノ

十八 病者ニ對シ禁厭祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨グタルモノ

第三條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

一 許可無クシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタルモノ

七 開業ノ醫師產婆ノ故ナク病者又ハ妊婦ノ招キニ應ゼサルモノ

死亡診斷書、死體檢案書等ノ様式 (明治三十三年十一月  
三重縣令第五十七號(抜))

死産證書 (死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名 (私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名)
  - 二 父ノ出生年月日 (私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)
  - 三 母ノ出生年月日
  - 四 父ノ職業 (私生子ノ場合ニ於テハ母ノ職業)
  - 五 妊娠月數
  - 六 分娩年月日時
  - 七 分娩ノ場所
  - 八 死胎ノ男女ノ別
  - 九 死胎ノ嫡出子  
庶子私生子ノ別
  - 右證明(檢案)候也
- 年 月 日
- 住 所

醫師(產婆)

何

某印

記載方

- 一、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其ノ母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三、死胎ノ何タルニ拘ハラズ其ノ母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 五、妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト見做シタル第幾月目ニ該當スルカラ記スヘシ
- 六、分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此ノ場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七、分娩ノ場所ハ郡市町村大字名及番地(番屋敷)ヲ記入スヘシ
- 八、死胎ノ男女孰レニ屬スルカラ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合

ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九、死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若ハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ合又ハ別未詳ト記ス

種痘法摘要 (明治四十二年四月 法律第三十五號)

- 第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタルモノニ付テハ此限ニアラズ
- 一、第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル但シ不善感ナル時ハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フベシ

墓地及埋葬火葬取締規則摘要 (明治十七年十月 太政官布達第二十五號)

- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得ズ但シ別段ノ規則アルモノハ此限ニ非ズ

民法摘要 (明治二十九年四月 法律第八十九號 及明治三十三年六月 法律第九號)

- 第一條 私權ノ享有ハ出生ニ始マル

第三條 滿二十歳ヲ以テ成年トス

第七十條 左ニ掲ゲタル債權ハ三年間之レヲ行ハザルニ因リテ消滅ス

一 醫師產婆及ビ藥劑師ノ治術勤勞及ビ調劑ニ關スル債權

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做ス

第八百二十條 妻ガ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得ズ

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ就テハ既ニ生レタルモノト見做ス

前項ノ規定ハ胎兒ガ死體ニテ生レタル時ハ之レヲ適用セズ

### 戶籍法摘要 (大正二年三月 法律第二十六號)

第七十二條 嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父ガ届ヲナスコト能ハザル場合又ハ民法第七百三十條第一項第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ左ニ掲ゲタル者ハ其順序ニ從ヒ届ケ出ヲ爲スコトヲ要ス

第一 戶主

第二 同居者

第三 分娩ニ立合タル醫師又ハ產婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

第二百二十一條 前條ノ届出ヲ爲シタル後(胎兒ヲ家督相續人トシテ届出タル後)胎兒死體ニテ生ジタル時ハ母ハ一月內ニ醫師又ハ產婆ノ檢案書ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ヅルヲ要ス母ガ前項ノ届出ヲ爲サザル時ハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一月內ニ届ケ出ヲ爲スコトヲ要ス

### 民事訴訟法摘要

第二百八十九條 何人ヲ問ハズ法律ニ關シ別段ノ規定ナキ限りハ民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ證言スル義務アリ

第二百九十七條 左ニ掲グル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 原告若クハ被告又ハ其ノ配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタル時

ト雖モ亦同ジ

第二 原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者

第三 原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

裁判長ハ訊問前ニ前項ノ者ニ證言ヲ拒ム權利アル旨ヲ告グベシ

第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 (略ス)

第二 醫師藥種商産婆辯護士公證人神職及ビ僧侶ガ其ノ身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スル時

第三、第四、第五 (略ス)

第二百九十九條 (前略)

前條第一號第二號ニ掲ゲタル者其ノ默秘ス可キ義務ヲ免除セラレタル時ハ證言ヲ拒ム事ヲ得ズ

第三百條 證言ヲ拒ム證人ハ其ノ訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ又ハ期日ニ於テ其ノ拒

絶ノ原因タル事實ヲ開始シ且ツ之ヲ説明ス可シ期日前ニ證言ヲ拒ミタル證人ハ期日ニ出頭スル義務ナシ (以下略ス)

刑事訴訟法ノ證人ニ開スルモノモ略同ジキヲ以テ省略ス

加納冬子編纂

三重縣  
看護婦試驗答解

自大正十五年七月九十四問題  
至大正十五年七月九十四問題



三  
重  
縣  
看護婦試驗答解目次

學說試驗問題

大正五年

- 一、血液大循環小循環ヲ圖解ヲ以テ示セ……………一
- 二、肝臟ノ位置、形狀、機能……………二
- 三、病室ノ換氣法……………三
- 四、嘔吐ノ介助……………三
- 五、沐浴ノ必要……………四
- 六、法定消化器系傳染病、病毒ノ所在……………五
- 七、消毒ノ意義……………五
- 八、吐瀉物ノ消毒方法……………六

九、屈伸運動ヲ有スル關節部ニ於ケル繃帶方法……………六

十、排尿器ノ種類及其使用方法……………七

十一、卒倒ノ原因……………八

十二、咬傷ノ手當……………八

大正六年

一、消化器系ヲ圖解ヲ以テ示セ……………九

二、脾臟ノ位置、形狀、機能……………一〇

三、吐血ト咯血トノ鑑別……………一一

四、死後ノ處置……………一二

五、日光ノ効用……………一二

六、蠅ノ媒介ニヨル傳染病五種ヲ舉ゲヨ……………一三

七、消毒ト滅菌トノ區別……………一三

八、夜具ノ消毒方法……………一三

九、義布斯繃帶ヲ行フニ際シ如何ナル點ニ注意ヲ要スルヤ……………一四

十、全身麻醉ニ用フル器械ノ名稱及使用方法……………一四

十一、如何ナル場合ニ日射病ヲ來スヤ……………一五

十二、生石灰未ノ眼ニ竄入シタル時ハ如何ナル應急手當ヲ行フヤ……………一五

大正七年

一、泌尿器系ヲ圖解ヲ以テ示セ……………一六

二、唾液ノ生理的作用……………一七

三、冷器法ノ用途及方法……………一八

四、藥物用法ニ就テ注意スベキ事項……………一九

五、水ノ効能……………二〇

六、痘瘡ノ確實ナル豫防法……………二〇

七、消毒ト滅菌トノ區別……………二一

八、唾痰ノ消毒方法……………二一

九、布帕繃帶ノ種類及用途……………二一

十、切開手術ニ用ユル主ナル器械ノ名稱……………二二

十一、癲癇發作ノ應急手當……………二二  
十二、第一度火傷ノ應急手當……………二二

大正八年

一、呼吸器系ヲ圖解ヲ以テ示セ……………二二  
二、消化器ノ器械的作用……………二三  
三、芥子泥ノ製法及貼用法……………二四  
四、下痢患者ニ對スル看護法……………二五  
五、空氣ノ効能……………二六  
六、保菌者トハ如何……………二六  
七、滅菌トハ如何……………二六  
八、飲食器具ノ消毒方法……………二七  
九、副木ノ材料……………二七  
十、皮下注射器取扱ノ注意……………二七  
十一、昇汞水ヲ誤飲シタル場合ニ於ケル應急手當……………二八

十二、毒蛇ニ咬レタル場合ニ於ケル應急手當……………二八

十一、女子内生殖器系ヲ圖解ヲ以テ示セ……………二九

十、五官器トハ如何及ソノ所屬神經ノ名稱……………二九

九、吸入器使用ニ就テ注意スベキ事項……………二九

八、呼吸困難ニ對スル看護法……………三〇

七、濕潤ナル土地ノ健康ニ及ボス影響……………三一

六、呼吸系ヨリ侵入スル傳染病ノ病名ヲ擧ゲヨ……………三一

五、顔面ノ消毒方法……………三一

四、煮沸消毒ヲ避クベキ物品ノ種類……………三一

三、繃帶ノ目的……………三一

二、痔疾手術ニ用フル主ナル器械ノ名稱……………三一

一、重「クローム」酸加里中毒ノ應急手當……………三二

十二、捻挫ノ應急手當……………三二

一、呼吸器系ヲ圖解ヲ以テ示セ……………三三

二、膽汁ノ生理的作用……………三三

三、不眠症ニ對スル看護上ノ注意……………三四

四、蒸汽吸入器使用上ノ注意……………三四

五、日光ノ効用……………三五

六、腸室扶斯ニ對スル最モ適當ナル豫防法……………三五

七、室内ノ消毒方法……………三六

八、尿管ノ消毒方法……………三七

九、繃帶材料ノ種類……………三七

十、針子ノ種類及使用後ノ取扱……………三八

十一、打撲症ニ對スル應急手當……………三八

十二、猫「イラズ」飲用者ニ對スル應急手當……………三八

大正十一年

一、腹腔内臓器ノ名稱……………三九

二、皮膚ノ生理的作用……………三九

三、塗擦法ヲ行フ場合注意スベキ事項……………四〇

四、「ブリスニツク」氏糞法……………四〇

五、水ノ人體ニ對スル効用……………四一

六、肺結核ノ主ナル傳染徑路……………四一

七、唾痰ノ消毒方法……………四二

八、蒸汽消毒ニ適セザル器械……………四二

九、鑷子ノ種類及ソノ用途……………四二

十、複帶ハ如何ナル場合ニ使用スルヤ及ソノ種類……………四二

十一、虚脱ノ症狀……………四三

十二、猫「イラズ」中毒ノ應急手當……………四三

實地試驗問題……………四三—四五

附 錄

看護婦ニ關スル諸規則

|            |     |
|------------|-----|
| 一、看護婦ノ資格   | 四一  |
| 二、看護婦ノ職務   | 四二  |
| 三、看護婦ノ服装   | 四三  |
| 四、看護婦ノ行動   | 四四  |
| 五、看護婦ノ言語   | 四五  |
| 六、看護婦ノ態度   | 四六  |
| 七、看護婦ノ衛生   | 四七  |
| 八、看護婦ノ教育   | 四八  |
| 九、看護婦ノ保險   | 四九  |
| 十、看護婦ノ救済   | 五〇  |
| 十一、看護婦ノ福利  | 五一  |
| 十二、看護婦ノ研究  | 五二  |
| 十三、看護婦ノ協同  | 五三  |
| 十四、看護婦ノ救護  | 五四  |
| 十五、看護婦ノ救急  | 五五  |
| 十六、看護婦ノ救災  | 五六  |
| 十七、看護婦ノ救難  | 五七  |
| 十八、看護婦ノ救傷  | 五八  |
| 十九、看護婦ノ救毒  | 五九  |
| 二十、看護婦ノ救瘡  | 六〇  |
| 二十一、看護婦ノ救腫 | 六一  |
| 二十二、看護婦ノ救癰 | 六二  |
| 二十三、看護婦ノ救痔 | 六三  |
| 二十四、看護婦ノ救瘻 | 六四  |
| 二十五、看護婦ノ救癩 | 六五  |
| 二十六、看護婦ノ救疥 | 六六  |
| 二十七、看護婦ノ救癬 | 六七  |
| 二十八、看護婦ノ救癩 | 六八  |
| 二十九、看護婦ノ救癬 | 六九  |
| 三十、看護婦ノ救癩  | 七〇  |
| 三十一、看護婦ノ救癬 | 七一  |
| 三十二、看護婦ノ救癩 | 七二  |
| 三十三、看護婦ノ救癬 | 七三  |
| 三十四、看護婦ノ救癩 | 七四  |
| 三十五、看護婦ノ救癬 | 七五  |
| 三十六、看護婦ノ救癩 | 七六  |
| 三十七、看護婦ノ救癬 | 七七  |
| 三十八、看護婦ノ救癩 | 七八  |
| 三十九、看護婦ノ救癬 | 七九  |
| 四十、看護婦ノ救癩  | 八〇  |
| 四十一、看護婦ノ救癬 | 八一  |
| 四十二、看護婦ノ救癩 | 八二  |
| 四十三、看護婦ノ救癬 | 八三  |
| 四十四、看護婦ノ救癩 | 八四  |
| 四十五、看護婦ノ救癬 | 八五  |
| 四十六、看護婦ノ救癩 | 八六  |
| 四十七、看護婦ノ救癬 | 八七  |
| 四十八、看護婦ノ救癩 | 八八  |
| 四十九、看護婦ノ救癬 | 八九  |
| 五十、看護婦ノ救癩  | 九〇  |
| 五十一、看護婦ノ救癬 | 九一  |
| 五十二、看護婦ノ救癩 | 九二  |
| 五十三、看護婦ノ救癬 | 九三  |
| 五十四、看護婦ノ救癩 | 九四  |
| 五十五、看護婦ノ救癬 | 九五  |
| 五十六、看護婦ノ救癩 | 九六  |
| 五十七、看護婦ノ救癬 | 九七  |
| 五十八、看護婦ノ救癩 | 九八  |
| 五十九、看護婦ノ救癬 | 九九  |
| 六十、看護婦ノ救癩  | 一〇〇 |

四五—五二

看護婦試験答解

加納冬子編纂

學說試驗問題

大正五年

(一) 血液大循環小循環ヲ圖解ヲ以テ示セ

(イ) 大循環ハ心臟ノ左室ヨリ起リ一條ノ大動脈ヲ以テ全身各部ヲ循環シ、後テ上下ノ二大靜脈トナリテ心ノ右房ニ還ルモノヲ云フ

(ロ) 小循環ハ心臟ノ右室ヨリ起リ一條ノ肺動脈ヲ以テ肺中ニ入り毛細血管トナリ、終ニ合シテ四條ノ肺靜脈トナリテ心ノ左房ニ還ルモノヲ云フ、茲ニ注意スベキハ肺動脈内ニハ靜脈血ヲ容レ肺靜脈内ニハ動脈血ヲ入ル、コトナリ

横隔膜ノ下部ニアリ、胃ノ右半部ヲ蔽フ、暗紅色ノ大ナル腺様體ニシテ判然ト左右二葉ニ分  
 タレ其ノ裏面ニ長卵形ノ膽嚢ヲ附着ス、膽嚢ノ末端ハ輸膽管トナリテ十二指腸中ニ開口ス、  
 肝臓ハ膽汁ヲ分泌スル機能ヲ有シ、膽嚢ハ常ニ膽汁ヲ貯フ、膽汁ハ主トシテ食物中ノ脂肪ヲ

(二) 肝臓ノ位置、形狀、機能



消化スル作用ヲ有ス

(三) 病室ノ換氣法

病室ノ空氣ハ汚染サレ易キヲ以テ常ニ新鮮ノ空氣ト交換スル必要アリ、完全ナル病室ニハ適  
 常ノ換氣裝置或ハ換氣窓等アルヲ以テ之ニ依テ換氣シ得ルモ、不完全ナル病室ニ於テハ時々  
 窓ヲ開イテ換氣スルヲ要ス、冬ハ毎旦朝夕二回十分—十五分間窓ノ戸ヲ開キ通風ス、風ノ強  
 キ時或ハ咳嗽アル患者ニアツテハ直接其病室ノ窓、障子等ヲ開クルコトナク、隣室ノ襖ト隣  
 室ノ窓ヲ開キ間接ニ通氣スルモ可ナリ、或ハ通氣中ハ特ニ餘分ノ蒲團ヲ被ヒ、或ハ患者ノ顔  
 面ヲ白布ニテ被ヒ直接侵入スル空氣ニ觸レザル様ニナス、夏季ニアツテハ、ナルベク晝夜窓  
 ヲ開キ置クヲ可トス、病室ニ惡臭ノ發セシ際ハ速ニ除クコトヲ勉メ又惡臭ノ外部ヨリ入ルヲ  
 防グ、障子等ノ間隙ヨリ入ル風ハ惡影響ヲ來スヲ以テ避クベシ、又炭火ヲ用ヒ或ハ暖爐ヲ用  
 ヒル場合ハ室内空氣ノ乾燥ヲ防グ爲メ、洗面器等ニ水ヲ入レ火上ニ置キ絶ヘス水蒸氣ヲ發散  
 セシム目録ニモ換氣ノ法ハ、病室ノ換氣ノ法ハ、病室ノ換氣ノ法ハ、病室ノ換氣ノ法ハ、病室ノ換氣ノ法ハ、  
 嘔吐ヲ催ス時ハ速ニ衣帶ヲ緩潤ニシ其ノ窘迫ヲ除キ、看護婦ハ患者ノ右側ニ坐シ右手ヲ額部

ニ貼シ左手ヲ後頭部ニ當テ頭首ヲ固持シテ其垂下ヲ防キ、介者ヲシテ大ナル容器ヲ口前ニ保持シ嘔吐ヲ便ナテシム

治療ノ目的ニテ吐劑ヲ與フルハ空腹時ニ於テナス、嘔氣ヲ催シ來ルモノナルベク之ヲ忍バシムル時ハ充分ニ目的ヲ達ス、一回嘔吐シタル後ハ更ニ多量ノ微温湯ヲ與ヘ、嘔吐ヲ容易ナラシムルニ努ム、嘔吐終レバ冷水ヲ以テ含嗽ヲ命ジ、口内ヲ清潔ニナサシム、嘔吐頑固ナル時ハ「セルテル」水、「サイド」等又ハ氷片ヲ嚥下セシム

知覺喪失中(癡醉藥服用中、或ハ卒倒者ノ如キ)ノ嘔吐ニ對シテハ最モ注意ヲ要ス、即チ頭首ヲ横ニセシメテ吐出セシメ吐物ノ氣管内ニ流入シテ窒息スルヲ防グ

(五) 沐浴ノ必要

皮膚ハ呼吸、體温調節、新陳代謝等貴重ノ作用ヲ營ムモノナルヲ以テ常ニ健全ヲ保ツヲ要ス、皮膚ハ汚垢其他ニ依テ甚ダ不潔ニナリ易ク、不潔ハ皮膚ノ健全ヲ害ス、故ニ皮膚ノ健全ヲ保ツ爲メニハ常ニ皮膚ヲ清潔ナラシムルヲ良シトス、屢褌衣ヲ交換スルハ清潔方法ノ一ツナルモ、之レノミニテハ未ダ充分ナラズ、時々浴ヲトリテ皮膚ヲ清潔ニナスベキナリ  
温浴ノ効果ハ皮膚ヲ不潔物ヲ去リ、皮膚ノ血行ヲ増進シ内臟ノ血液ヲ少クシ、又疲勞ヲ醫シ

且ツ精神上ノ愉快ヲモ加フルヲ以テ健全ノ者ハ勿論、病者ト雖病症ノ許ス程度ニ沐浴ヲ行フハ欠クベカラザルコトナリ

冷浴ハ健者ニハ皮膚ノ抵抗力ヲ強クシ容易ニ氣候ノ變化ニ感ヒズ、從テ感冒ヲ豫防スルニ必要ナリ、病者ハ治療ノ目的ヲ以テ局所的ニ行フコトアリ

(六) 法定消化器傳染病病毒ノ所在

(1)、腸チブス菌ハ同患者ノ脾臟、大便、尿、蓄滲疹ノ液、血液、「チブス」性肺炎ノ喀痰中ニ存在ス

(2)、バラチブス菌ハ同患者ノ血液、腸内容物、若クハ尿中ニ存在ス

(3)、赤痢菌ハ赤痢患者ノ糞便ニ存在ス

(4)、コレラ菌ハ同患者ノ糞便、腸内容物、腸壁、吐物中ニ存在ス

(七) 消毒ノ意義

消毒トハ傳染病患者ノ分泌物、排泄物ニ含ミテ體外ニ出ル病毒及患者ニ觸接スル被服物品等ニ附着セル病毒ヲ滅却スル方法ナリ

(八) 吐瀉物ノ消毒方法

吐瀉物ヲ容ルベキ容器ニハ最初少量ノ石灰乳又ハ生石灰末ヲ入レテ患者ノ使用ニ供シ、吐瀉終リタル時ハ吐瀉物ト同量ノ生石灰末又ハ石灰乳ヲ加ヘテ能ク攪拌シテ、約一時間其儘トナシ置キ便所等へ捨ツルコト、但シ吐瀉物ト同量ノ二十倍石炭酸水又ハ約十七倍ノ「クレゾール水」ヲ用フルモ差支ナシ

(九) 屈伸運動ヲ有スル關節部ニ於ケル繃帶方法

本繃帶方法ニ二種アリ、ハ集合性ニシテ他ハ開散性ナリ

(1) 集合交叉帶又ハ集合龜甲帶

今膝關節ニ就テ説明センニ膝關節ノ上部或ハ下部ニ於テ先ツ環行帶ヲ施スコト二三回ニシテ斜メニ膝關節ヲ環リテ上腿ノ下部或ハ下腿ノ上部ニ至リ茲ニ纏絡スルコト一回ニシテ、更ニ斜メニ膝關節ヲ上リ一回轉ノ後チ更ニ下降シ前片ト交叉シ一上一下股圍ト下腿ヲ一週スルコト數回、各行毎ニ前行ノ三分一乃至二分一ヲ被フコト通規ノ如クシ、中央膝蓋部ニ至テ環行帶ヲ以テ終ル

(2) 開散交叉帶又ハ開散龜甲帶

前法ニ反シ當初膝關節ノ中央部ヨリ起リ、順次上方及下方ニ交互ニ纏絡シ、上腿若クハ下腿ニ於テ還行帶ヲ以テ終ル

(十) 排尿器ノ種類及ソノ使用方法

種類

金屬「カテーテル」、「ネラトシカテーテル」各男子用及女子用ノ別アリ、最小ノモノヨリ最大ノモノニ至ル迄第一號ヨリ第十二號ニ區別ス、女子用ノモノハ男子用ニ比シ短シ

使用法

殺菌「カテーテル」ヲ取り石炭酸「オレーフ油」或ハ「グリセリン」又ハ「ワセリン」等ヲ塗布シテ細心注意シテ外尿道口ニ送入ス、此際決シテ重壓ヲ加ヘザル様注意ス、多少ニテモ前程ニ抵抗ヲ感スレバ一度引キ出シ、尿道ノ方向ニ徐々ニ送入ス、送入ノ際「カテーテル」ノ後端ハ示指頭ヲ以テ閉鎖ス、然ラザレバ「カテーテル」ノ尖端膀胱ニ達シタル時尿管口ヨリ迸出スベシ、「カテーテル」膀胱ニ達スル時ハ「カテーテル」ノ後端ヲ排尿器上ニ持チ來リ、十分排尿セシムヘシ、「カテーテル」抜去ノ際モ指頭ヲ以テ管口ヲ押ユルコト最初挿入時ニ於ケルガ如クシ、全ク抜去シタル後、排尿器上ニテ指頭ヲ放ツ時尿管中ニ殘留スル少許ノ尿ハ自ラ流出ス



ベシ

(十二) 卒倒ノ原因

卒倒ハ主ニ腦ノ貧血ニ依リテ起ル、大人ニモアレド小兒ニハ最多シ、即チ頭腦ヲ劇シク打チ、又ハ柱等ニ衝突シ或ハ劇シク驚キ又ハ出血シタルトキ、急ニ倒レテ臀部ヲ打チタル時ナドニ起ル、又飢餓、睡眠不足、疲勞後ノ勞働、過劇ノ勞働、非常ノ疼痛、驚怖、劇シキ精神感動等ニテ起ルコトモアリ、或ハ久シク立チ居ル爲メニ起ルコトモアリ

(十三) 咬傷ノ手當

1、蛇咬傷

局處療法トシテ被咬部四肢ナル時ハ直ニ其上部ヲ緊縛シテ中樞ニ向フ血行及淋巴流ヲ杜絶シ、同時ニ口或ハ吸引器ヲ以テ創口ヨリ毒物ヲ吸引シ、三十倍石炭酸水ニテ創口ヲ洗ヒ速ニ醫療ヲ受ケシム、妊娠中ノ蝮ハ咬ミシ時齒ヲ殘シ行クヲ以テ之ヲ掘リ取り五十倍石炭酸水ノ濕布ヲ施シ速ニ醫療ヲ受ク

2、鼠咬傷

前項ノ處置ヲ施シ一千倍過滿俺酸「カリウム」液ニテ洗ヒ硝酸銀桿ニテ燒灼ス

3、犬咬傷

狂犬ノ疑アル時ハ速ニ醫師ノ處置ヲ受クベシ、狂犬ナルヤ否ヤハ區別シ難キ場合多キヲ以テ犬牙ノ咬傷ハ1ノ處置ヲ施シ局處ヲ五百倍昇汞水又ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ嚴重ニ消毒シテ相當ノ醫療ヲ受ク

4、猫咬傷

1ノ處置ヲ施シ一千倍過滿俺酸「カリウム」液ニテ洗ヒ硝酸銀桿ニテ燒灼ス

5、馬咬傷

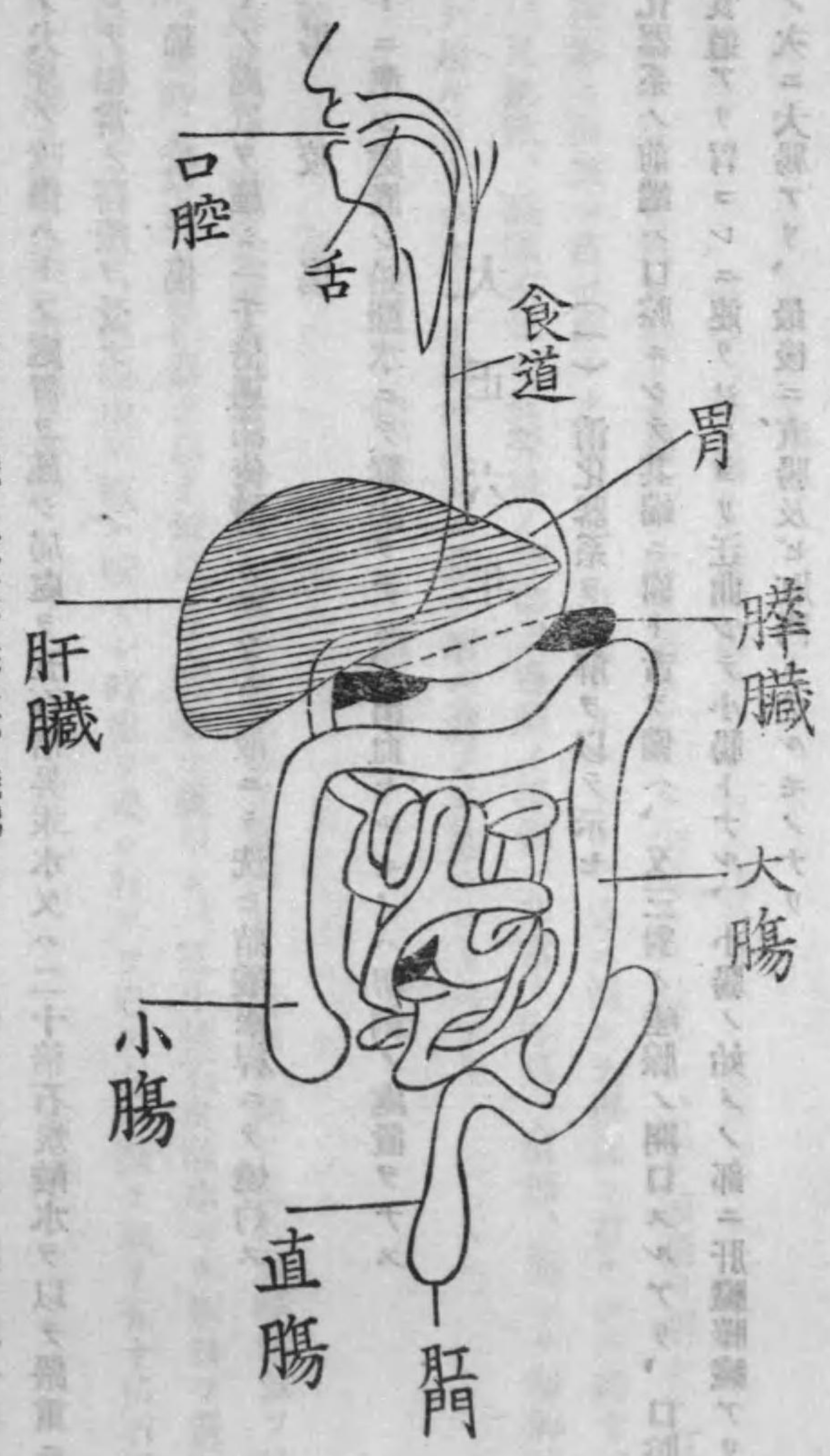
1ニ準シ處置シ鉛糠水ニテ罨法ヲナス、出血セルモノハ切創ノ處置ヲナス

大正六年

(一) 消化器系ヲ圖解ヲ以テ示セ

消化器系ノ前端ハ口腔ニシテ其端ニ齒ト舌ヲ備ヘ、又三對ノ唾腺ノ開口スルアリ、口腔ノ次ニ食道アリ胃コレニ連リソレヨリ迂曲シテ小腸トナル、小腸ノ始メノ部ニ肝臟脾臟アリ、小腸ノ次ニ大腸アリ、最後ニ直腸及ビ肛門トナルモノナリ

胃、大腸、小腸、肝臓、脾臓、食道、口腔、舌、直腸、肛門



(二) 脾臓ノ位置、形状、機能  
 脾臓ハ胃ノ左方左季肋下ニアリ、其狀珈琲豆ニ似タリ、質柔軟ニシテ海綿狀組織ヨリ成ル、

頗ル血管ニ富ミ、血液ノ製造ヲ司ル

(三) 吐血ト咯血トノ鑑別

吐血トハ胃ヨリスル出血ヲ云フ、咯血トハ肺ヨリスル出血ヲ云フ、其鑑別左ノ如シ

吐血

(イ) 血液ハ嘔吐ニ依テ來ル

(ロ) 胃、肝臓病ノ既往症ト出血前ニ嘔氣及ビ上腹部ノ壓迫感アリ

(ハ) 血液ハ空氣ヲ含有セズ、暗赤色特ニ黒色ヲ呈シ凝固シテ團塊ヲナス

(ニ) 往々食物ノ殘片ヲ混ズ

(ホ) 胃出血ハ突然ニ來リ其持續短シ、出血後ノ糞便ハ往々「テール」様ニ着色ス

咯血

(イ) 血液ハ咳嗽ニ依テ來ル

(ロ) 肺、心臟既往症ト出血前ニ胸内苦悶感アリ

(ハ) 血液ハ空氣ヲ含有スルヲ以テ泡沫ヲ含ミ其色鮮紅色ニシテ凝固性ヲ有セズ

(ニ) 往々粘液及膿汁ヲ混ズ

(ホ) 肺出血ハ通常一定期間久シク持長シテ然ル後漸々ニ消失スルモノトス

(四) 死後ノ處置  
患者死亡シタル時醫師其ノ場ニアラザル際ハ直ニ檢診ヲ求メ、眞死タルコト確定スルニ及ンテ、始メテ屍體ヲ屍室或ハ別室ニ移シ、全身ノ衣帶ヲ脱却シ、清水若クハ消毒藥ヲ以テ身體ノ諸部ヲ清拭シ鼻、口及肛門等ノ孔穴ニハ消毒綿ヲ纏充シタル後、更ニ清淨ナル白衣ヲ着セシメ、整頓セル臥床ノ上ニ仰臥位トナシ、歪位ニ強直ヲ起ス虞アルヲ以テ四肢ノ位置ヲ正シ、納棺ニ際シテノ不便ナカラシメ、然ル後清潔ナル白布ヲ以テ顔面及全身ヲ被覆ス、若シ傳染病患者ナルトキハ別ニ法規ノ定ムル所ニ從ヒ、屍體ノ處置ヲ施ス、死後ノ處置ニ際シ最モ注意ス可キハ如何ナル場合ト雖モ、鄭重ニ取扱ヒ人道上ヨリ決シテ屍體ニ對スル敬意ヲ失セザルニアリ、就中傳染病患者ノ屍體ニ對シテハ一層此ノ注意ヲ必要トス

(五) 日光ノ効用

日光ハ人體ノ新陳代謝ヲ促進シ、各機關ノ機能ヲ順調ニシ、健康ヲ増進ス、又日光ハ腦ニモ大ナル關係アリ、即チ人ノ氣力ハ日光ニ依テ大ニ興奮セラレ之レニ依テ氣力ノ充溢ヲ得ルモノナリ、殊ニ結核患者等ノ療養上最モ有効ナリ

直射日光ハ強大ナル殺菌力ヲ有ス、即チ結核菌ハ約三十分間、「チブス」菌ハ約一時間、赤痢菌ハ約三十分間、「コレラ」菌ハ約三時間ニテ死滅ス

(六) 蠅ノ媒介ニ依ル傳染病五種ヲ舉ゲヨ

虎列刺、赤痢、窒扶斯、實布瓦利亞、肺結核

(七) 消毒ト滅菌トノ區別

消毒トハ存在ヲ確認シタル病原菌ヲ殺滅シ、或ハ其ノ存在ノ疑アル物體ニ對シ其ノ病原菌ヲ殺滅スル方法ヲ云フ、滅菌トハ總テノ微菌ヲ殺滅スルノ意ニシテ或ル病原菌ノ存在ヲ確認セザルモ滅菌ニ依ツテ其ノ物體ヲ無菌狀態トナシ、此ノ物體ノ接觸ニ依ツテ微菌ヲ浸入スルコトナカラシムルニアリ、例バ「チブス」患者ノ汚物ヲ附着セル被服ヲ所定ノ蒸汽處置ヲ施スハ消毒ニシテ傷面ニ觸接セシムベキ「カーゼ」ヲ豫メ蒸汽ニテ處理シ無菌狀態トナスハ滅菌ナリ

(八) 夜具ノ消毒方法

夜具ノ消毒ハ蒸汽消毒ニ依ルヲ最完全ナリトス、即チ流通蒸汽ヲ用ヒ消毒器中ノ空氣ヲ驅除シ一時間以上攝氏百度以上ノ温熱ニ觸レシム、消毒終ラバ充分ニ日光ニ曝露シ乾燥セシム、若シ蒸汽消毒ヲ行ヒ得ザルトキハ藥液ニ浸漬ノ方法ニヨルベキモ取扱上甚ダ不便ナリ、汚染

ノ狀況ニヨリ日光消毒ヲ行フモ可ナリ、汚染甚ダシキ時ハ寧ロ燒却消毒ヲ行フヲ安全ナリトス

(九) 義布斯繙帶ヲ行フニ際シ如何ナル点ニ注意ヲ要スルヤ

1、義布斯ハ常ニ濕氣ヲ避ケ密閉シテ貯ヘ、用ニ臨ンデ念ノ爲メ加熱シテ使用スレバ硬結セザル憂ナシ、義布斯繙帶ヲ施スニ際シテハ、先ヅ局部ヲ柔軟ナル「フロンネル」帶ニテ纏ヒ或ハ厚キニ失セザル綿花ヲ以テ纏包シ、上ニ單層ノ木綿帶ヲ施シテ之ヲ固定シ、壓迫ヲ避クベキ部位ニハ特ニ綿花ヲ重ヌ、而シテ繙帶ノ纏絡ニハナルベク緩カニナシ決シテ其ノ一端ヲ牽引セザル様ニナス

2、義布斯繙帶ノ周縁ハ乾燥スルニ及ンデ硬化シ皮膚ヲ刺戟シ、或ハ其部ヲ毀損スルノ恐れルヲ以テ其間ニハ充分綿花ヲ挿入シテ之ヲ豫防ス

3、義布斯繙帶ヲ施シタル後、患部ノ疼痛、繙帶部附近ノ腫起、末梢部ニ於ケル鬱血、知覺鈍麻等ノ諸症狀ヲ認ムル時ハ直ニ醫師ニ申告ス

(十) 全身麻醉ニ用フル器械ノ名稱及使用法

イ、麻醉藥吸入裝置

構造數種アリ、從テ使用法ヲ異ニスルモ、其ノ主要部ハ假面及滴瓶ヨリナル、「ガーゼ」ヲ箆メタル假面ヲ鼻、口ニ被ヒ、其上ヨリ滴瓶中ノ麻醉藥ヲ点滴ス、又假面ニ護謨管ヲ附シ之ヲ噴液瓶ニ連ネ、噴液瓶ハ更ニ二連球ニ連リ之レ、ニヨリテ麻醉藥ヲ吸入セシムルモノアリ、「エノテル」專用器ハ「コロ、ホル」專用器ニ比シ假面大ナリ

ロ、開 口 器

「ハイステル」氏開口器「ローゼル」氏開口器等ノ種類アリ、横齒アル兩嘴ニ「ガーゼ」ヲ纏絡シ、兩嘴ヲ閉チタル儘上下ノ齒間ニ挿入シ、器端ノ螺旋裝置ニヨリテ徐々ニ兩嘴ヲ開キテ開口セシム

ハ、舌 鉗 子

舌ヲ引き出すニ用フル鉗子ニシテ、兩嘴頭ノ鈍三角輪間ニ舌ヲ挾ム

(十一) 如何ナル場合ニ日射病ヲ來スヤ

日射病ハ炎暑ノ候、空氣濕ヒ風無キ時腦及腦膜ヲ侵スニ依テ起ル危險症狀ニシテ、虛弱、病後及過勞、睡眠不足、飢渴、飲酒及性交ノ過度、勞働ニ慣レザル等之レガ誘因ヲナス、(十二) 生石灰末ノ眼ニ竄入シタル時ハ如何ナル應急手當ヲ行フヤ

生石灰ノ眼ニ竄入シタルトキハ決シテ水ニテ洗フベカラズ、生石灰ハ水ニ遭ヘバ熱ヲ發スル性質ヲ有スルヲ以テ反テ不良ノ結果ヲ來スヘシ、故ニ斯ル時ハ塵埃ノ混セザル油ヲ滴加シ冷ヤシツ、洗ヒ除クヲ良シトス

大正七年

(一) 泌尿器系ヲ圖解ヲ以テ示セ

泌尿器系ハ腎臟、輸尿管、膀胱、尿道ヨリナル腎臟ハ泌尿ノ原器ニシテ左右二個アリ、脊柱并ニ大動脈下大靜脈ノ兩側ニ位シ上方ニ副腎ヲ戴ク、吾人ノ飲食ニヨリ攝取スル所ノ營養分ガ消化器ニヨリテ吸收セラレ、組織ニ養分ヲ附與シタル後ソノ殘滓ノ不純物ガ腎臟ニ來リ此中ニ於テ尿ガ間斷ナク分泌セラレ、徐々ニ輸尿管ヲ經テ膀胱ニ送ラレ、尿道ヨリ排出セラル



(二) 唾液ノ生理的作用

- 1、糖化作用、唾液中ニ含有スル酸酵素所謂唾液素ニヨリ食物中ノ澱粉ヲ「デキストリン」及糖ニ變化シ消化吸収ヲ容易ナラシム
- 2、食物ヲ粘滑トナス、食物ニ混シテ粘滑トナシ食塊ノ形ヲシテ嚥下ニ便ナラシム、加之粘

液素ニヨリ食塊ノ周圍ヲ被包ス

3、貧物ヲ溶解ス、食物中唾液ニ溶解スルモノハ、悉ク溶解シテ液體トナス

4、殺菌作用アリ

(三) 冷罨法ノ用途及用法

冷罨法ハ身體ノ一部ヲ冷却スルニ用フルモノナリ、其目的ハ炎症ヲ防ギ、疼痛ヲ輕減若クハ除却シ又出血ヲ抑止ス、冷水罨法ト冷罨法トノ二種アリ

イ、冷水罨法、冷水ヲ「ガーゼ」又ハ「タオル」ニ浸シ、輕ク絞リテ局部ニ貼シ、更ニ同一ノモノヲ冷水中ニ浸シ置キ、溫暖トナル時ハ交換スルノ用ニ供ス、斯ク反覆シテ行ヒ局部ノ冷却ヲ長時間持續セシム、交換ヲ怠ル時ハ溫暖法ニ變シテ反對ノ作用ヲナシ反テ目的ヲ達セザルコトアリ尤モ注意ヲ要ス

水ニ起寒劑ヲ混シテ寒冷ヲ保タシメ氷嚢ニ入レテ用フル法アリ、即チ「シユツムケル氏」法ナリ

「ライテル氏」ノ冷却裝置ハ二管ノ護謨管(一ハ注流用一ハ還流用)ト覆蓋ヨリ成リ、水冷セ

ロ、氷 罨 法

氷又ハ雪ヲ氷嚢ニ入レテ患部ヲ冷却スルニアリ、氷嚢ハ布製、護謨製、油紙製、豚ノ膀胱等種々アリ、氷塊ハ塊片ノ尖端ヲ摩擦セシメ(依等ニテ攪拌ス)テ氷嚢ニ入レザレバ屢氷嚢ヲ破損スルコトアリ、患部ニハ「タオル」或ハ「ガーゼ」ヲ貼シ、其ノ上ニ氷嚢ヲ充ツ、氷嚢法久キニ互ル時ハ疼痛ヲ感シ其ノ部ノ皮膚凍傷ニ罹ルコトアリ注意ヲ要ス、又氷塊溶爛シテ溫暖トナラザル様ニ注意ヲ要ス

(四) 藥物用法ニ就テ注意スベキ事項

藥物ハ常ニ一定ノ場所ニ整置シ布片ヲ覆ヒ置クベシ、藥物ノ用法ハ最モ慎重ノ注意ヲ要ス、藥物容器ノ附箋及處方記載ノ事項ヲ熟讀シ患者ノ姓名、用法、用量、服用時間等ヲ誤ラザルコトニ注意ス、重症患者ニシテ熟睡シタル時ハ藥劑投與ノ爲メニ強テ喚醒スルコトナリ、醒覺シタル時與フヲ良シトス

水劑ハ用ニ臨ンテ上下ニ振盪シテ能ク混和シタル後小盃又ハ匙ニ移シ、ナルベク患者ヲ抱キ起シテ徐々ニ口中ニ注入ス、此際急ニ多量ニ注入スル時ハ動モスレバ流溢シ或ハ氣道ニ入りテ噎ブコトアリ

散劑ハ通常「オブラート」ニ包ミ、初メ少シノ水ヲ以テ口内ヲ濕シテ後與ヘ、丸劑亦口内ヲ濕シ、丸粒ヲ舌上ニ置キ更ニ水ヲ與ヘテ嚥下セシム、滴劑ハ一定ノ分量ヲ盃水ニ滴下シテ與フルカ或ハ砂糖、麴粉等ニ適下シテ與フ、滴劑ハ概ネ劇毒藥ヲ調合シアルヲ以テ其滴數ハ精確ニ數フルヲ要ス

含嗽劑ハ之ヲ嚥下シ或ハ氣管ニ入ラザル様注意ヲ與フ、塗布藥、塗擦藥、點眼藥等ノ使用總テ指定ヲ過ラザル様注意ス

(五) 水ノ効能

水ハ吾人生活ノ要素ニシテ、空氣ト同シク一日モ欠クベカラザルモノニシテ、身體ノ主要成分ヲナス、即チ身體ノ六十五%ハ水ニシテ又血液ノ七八%ハ水ナリ、即チ人體ノ六割強ハ水分ニシテ其ノ十分ノ一ヲ失フ時ハ疾病ヲ起シ、十分ノ二ヲ失フ時ハ遂ニ死スルニ至ル、普通ノ水ハ幾分ノ礦物質ヲ含ミ吾人ニ營養ヲ與ヘ、身體中含マレザル所ナク、或ハ滋養物ヲ循環サセ或ハ諸廢物ヲ流出シ、或ハ諸機關ヲ滑カニシ、或ハ諸食物ヲ溶解スル等其効用甚ダ大ナリ

(六) 痘瘡ノ確實ナル豫防法

痘瘡ノ確實ナル豫防法ハ種痘ニ依テ得ラル種痘ハ法律ヲ以テ定メラレ、第一期種痘ハ出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フ、第二期種痘ハ數ヘ歳十歳、但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フモノナリ、然レドモ種痘ニ依ル免疫有効期間ハ三年乃至五年ナルモ一定セズ、故ニ大人ト雖モ一年毎ニ行ヒ又痘瘡患者ニ接スルモノ等ハ直ニ種痘スルヲ良シトス

(七) 消毒ト滅菌トノ區別

(大正六年第七問ニ同シ)

(八) 唾痰ノ消毒方法

痰壺ニ五%石炭酸水(防疫用石炭酸五分、鹽酸一分水九四分)ヲ入レ置キ唾痰ハ此ノ内ニ吐カシメ、充分攪拌シテ、便所溝渠ニ投棄ス、唾痰ノ附着シタル紙片、布片類ハ前記石炭酸水中ニ充分浸漬シ二十四時間ノ後便所或ハ溝渠ニ投棄ス、或ハ紙片、布片類ハ燒棄ス

(九) 布帕繙帶ノ種類及用途

イ、三角巾ハ主トシテ頭部上肢ノ懸吊乳房ノ提舉等ニ用ヒラル、即チ小頭巾又帽狀帶、胸廓布帕、乳腺提舉布帕、上肢懸吊布帕、腋窩及肩胛布帕、鼠蹊部ノ布帕、手及足ノ布帕等ナリ

ロ、二重布帕ハ下顎ノ外傷或ハ頤部ヲ包ムニ用フ、即チ頤投石帶、大頭巾等アリ  
 ハ、四角巾ハ其兩狹側ヲ切離シテ頭部ノ繃帶ニ應用セラル、即チ四角頭巾、投石頭布ノ如シ

(十) 切開手術ニ用フル主要ナル器械ノ名稱

圓刃刀、有鉤鋸子、反剪刀、止血鉗子、把針器、麥粒鉗子、銳匙、直剪刀、鈍鉤、消息子、縫合針等ナリ

(十一) 癲癇發作ノ應急手當

癲癇ノ發作セントスル時ハ、多量ノ食鹽水ヲ飲マシメ、上下齒列間ニ布片ノ厚ク丸メタルモノ等ヲ挿入シ舌ヲ咬ムヲ防グ、衣服帶等ハ解キ充分緩裕ニナス

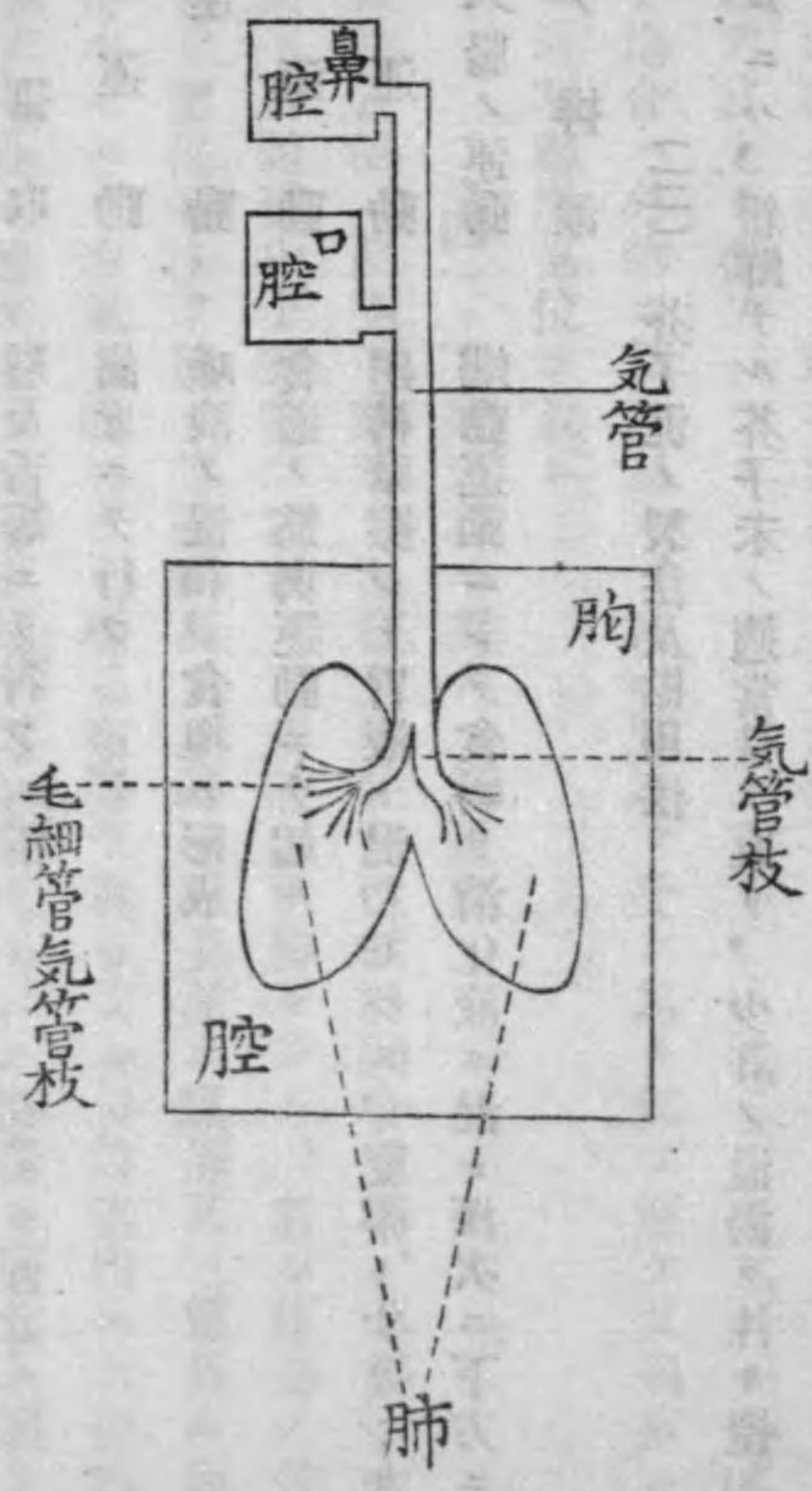
(十二) 第一度火傷ノ應急手當

冷水ヲ注イテ冷ヤシ、「リスリン」、「ワセリン」、油類、十倍硝酸銀水、白粉、ウドン粉等ヲ塗リ百倍ノ石炭酸水又ハ五十倍ノ硼酸水ヲ浸シタル脫脂綿ヲ貼シテ輕ク繃帶ス

大正八年

(一) 呼吸器系ヲ圖解ヲ以テ示セ

呼吸器系ハ口腔、鼻腔、喉頭ヨリ氣管ニ接續シ、氣管ノ下部ハ胸腔内ニ入り左右二枝ニ分レ漸次毛細氣管枝トナリ、其末端ハ膨大シテ肺胞トナリ肺胞ハ個々相集合シテ遂ニ肺臟トナル、即チ肺臟ハ左右二個アリ肺臟ノ上方ヲ肺尖ト云ヒ、右肺ハ更ニ三葉ニ分レ左肺ハ二葉ニ分ル



(二) 消化器ノ器械的作用



消化器ノ器械的作用ハ大概四項ニ分ツヲ得

イ、食物ノ攝取 唇及舌等ニテ行フ

咀 嚼 運 動 齒牙ニテ行フ

舌 運 動 唾液ノ混和、食塊ノ形成

ロ、嚥 下 運 動 食道ノ筋肉運動ニテ起ル

ハ、胃 ノ 運 動 廻轉摩擦シテ胃液ト混和セシム、糜粥トナリシモノヲ腸ニ送ル

小腸及大腸ノ運動 蠕動運動ニシテ食物ヲ消化液ニ混シ漸次ニ下方ニ送ル作用

ニ、糞 便 ノ 排 泄

### (三) 芥子泥ノ製法及貼用法

芥子泥ヲ製スルニハ、新鮮ナル芥子末ノ適當量ヲ取り、少許ノ温湯ヲ注キ攪和シテ軟泥狀トナシ、部位ニ適應スル布片又ハ厚キ紙片ニ延挺シ、皮膚ニ貼用シ其上ヲ日本紙又ハ布片ニテ被フ、局部ノ知覺過敏ナル時ハ、薄キ紙片ヲ以テ局部ヲ覆ヒ其ノ上ニ貼用ス、又ハ約三分ノ一ノ澱粉ヲ混シテ泥トナス、之ニ反シ局部強革ニシテ知覺鈍キ部位ニ在テハ其ノ部ヲ刷毛等ニテ摩擦シ、其部ノ發赤スルヲ待テ貼用ス、或ハ酢ノ數滴ヲ加ヘ又ハ山葵「オロシ」ノ少

量ヲ加フ

芥子泥貼用ニ依リ皮膚灼熱、疼痛發赤スル時(大約十分乃至十五分後ニアリ)ハ之ヲ剝去シ冷水若クハ微温湯ヲ布片ニ浸シテ洗拭ス、卒倒者ニ在ツテハ醒覺スルニ及シテ剝離ス、貼用後劇痛ヲ發シ、水泡ヲ生スル時ハ洗拭後、石炭酸「オレーフ」油、緩和軟膏ヲ塗布シ或ハ濕潤セル壓抵布ヲ以テ其上ヲ覆フ

芥子泥貼用ノ場合ハ外物ニ觸レ易ク、或ハ壓迫ヲ受ケ易キ部ヲ避ケ又病症ニヨリ頻々貼用ヲ要スル場合ニハ其都度部位ヲ改ム

### (四) 下痢患者ニ對スル看護法

固形物及刺戟性食品ハ絶對ニ禁止シ温暖ナル粘滑性飲料例令重湯、葛湯、大麥煎汁、温暖ナル牛乳等ヲ與ヘ身體就中下部ヲ温包シテ安靜ニ就褥セシム、若シ疼痛ノ伴フ時ハ懷爐、毯布、其他ノ乾、濕温褌法ヲ施シ疼痛劇甚ナル時ハ芥子泥ヲ腹部又ハ胃部ニ貼用ス、便所ニ行キ得ルモノハ冷氣ヲ感セザル様毛布等ヲ着セシム、病室内ニテ便器ニ就カシムル時ハ其都度便器ヲ室外ニ遠サタベシ、病床ヲ離レ難キモノハ便器ヲ適宜ニ温メ(温湯ニテ洗ヒ)衾中ニ挿入ス、患者ノ上身ヲ高クスルトキハ排便可容易ナリ、床上ニハ防水布ヲ敷クヲ良トス

(五) 空氣ノ効能

空氣ハ地球上到ル處ニ存在シ、生物ノ生存上缺クベカラザルモノナリ、殊ニ空氣中ニ含有スル酸素ヲ最モ必要トス、酸素ハ人體内ニ入りテ、營養物並ニ身體ヲ構成スル物質ノ酸化的分解ヲ營ミテ活力ヲ生ズル用ヲナス、空氣ハ又體內ニ生シタル炭酸、熱、水蒸氣等ヲ受容スル効用ヲ有ス、其他氣温、氣壓、風動等人體ノ生活ニ深甚ノ關係ヲ有ス

(六) 保菌者トハ如何

保菌者トハ傳染病ノ病毒ヲ若干期間身體内ニ保有シ、症狀ガ現レザルモノヲ云フ、「コレラ」「腸チブス」、「バラチブス」、赤痢等ニ見ルモノナリ  
保菌者ニ二様ノ別アリ

イ、健康保菌者 全ク健康體ニシテ一回モ症狀ヲ現ハスコトナク菌ヲ保有スルモノ  
ロ、恢復後ノ保菌者 傳染病ノ恢復患者ニシテ症狀ハ去リタルモ、猶ホ菌ヲ保有スルモノ  
兩者共ニ保有スル菌ヲ體外ニ排出ス、排出期間ハ二、三ヶ月ニ止マル一時性保菌者、一年以上排菌スル持久性保菌者アリ

(七) 滅菌トハ如何

滅菌トハ總テノ微菌ヲ殺滅スルノ意ニシテ、或ル病原菌ノ存在ヲ確認セザルモ、滅菌ニ依テ其ノ物體ヲ無菌狀體トナシ、此ノ物體ノ接觸ニ依テ微菌ヲ浸入スルコトナカラシムルニアリ例バ傷面ニ觸接セシムベキ「ガーゼ」ヲ豫メ蒸氣ニテ處理シ無菌狀體トナスガ如キハ滅菌ナリ

(八) 飲食器具ノ消毒方法

飲食器具ハ煮沸消毒ヲナスヲ最モ適當トス、即チ食器ヲ湯ノ中ニ全ク浸漬シ確實ニ三十分間煮沸スベシ、煮沸ニ堪ヘザルモノハ消毒藥中ニ液漬シ後清水ヲ以テ充分ニ洗滌スベシ、「コレラ」患者ニ在ツテハ百倍稀鹽酸水ニ浸漬シ置クヲ可トス

(九) 副木ノ材料

副木ノ材料ハ主トシテ薄キ木片、厚紙、金屬製網、金屬薄板、鯨線、「ガーゼ」、木綿、脫脂綿、生綿、繃帶等ナリ

救急處置ノ爲メ用フル副木ノ材料ハ各種ノ材料ヲ應用スルヲ得、即チ木片、傘、洋杖、樹枝、紙箱、布片、手拭、帶、藁等ヲ應用シ得ベシ

(十) 皮下注射器取扱ノ注意

先ツ注射器ノ用ニ堪フルヤ否殊ニ注射針ガ折損ノ憂ナキヤヲ充分ニ檢シ、二%石炭酸水ニテ

器ノ内外ヲ能ク清洗シ、藥液ヲ器内ニ吸引シ豫メ石炭酸水中ニ浸漬シアル注射針ヲ装着シタル後、針ヲ上方ニ向ケ、吸子ヲ輕ク押シテ器中ノ空氣ヲ全ク排除シテ後注射ヲ行フ  
注射部位ハ大ナル血管ノ存セザル所ヲ撰ビ、其部位ノ皮膚ハ初メ石鹼、後酒精ニテ清拭シテ後注射ヲ行フ、此ノ際注射針ハ皮膚ニナルベク平行セシメテ穿入スルコトニ注意ス  
注射後ハ絆創膏ノ切片ヲ貼ス、器ハ充分洗濯消毒ヲナシ置ク

(十二) 昇汞水ヲ誤テ飲用シタル場合ニ於ケル應急手當  
昇汞水ヲ誤テ飲ミタルトキハ、直ニ湯或ハ水成ルベクハ濃キ茶ヲ多量ニ飲マシメ嘔吐セシム、若シ嘔吐シ得サルトキハ、指ヲ深ク口ノ中ニ入レテ嘔吐ヲ催サシム、猶ホ嘔吐セザルカ或ハ嘔吐シタル後ハ卵白又ハ牛乳ヲ與ヘ、硼酸水又ハ鹽剝水ノ含嗽ヲナサシメ、胃洗滌及灌腸ノ準備ヲナシテ醫ノ來診ヲ待ツ

(十三) 毒蛇ニ咬マレタル時ノ應急手當

(大正五年第十二問(1)ニ同シ)

大正九年

(一) 女子内生殖器系ヲ圖解ヲ以テ示セ  
女子内生殖器系ハ腔、子宮、輸卵管(喇叭管)及卵巢并ニ之ニ附屬スル諸靱帶ヨリナル、腔ハ子宮ノ下方ニアリ輸卵管ハ子宮ノ左右二個、卵巢亦左右二個ニシテ輸卵管ノ下方ニアリ  
圖(産婆試験問題大正五年第二回第一問参照)

(二) 五官器トハ如何及ソノ所屬神經ノ名稱

五官器トハ視感ヲ司ル所ノ視官器即テ眼、聽感ヲ司ル所ノ聽官器即チ耳、嗅感ヲ司ル所ノ嗅官器即チ鼻、味感ヲ司ル所ノ味官器即チ舌、觸感ヲ司ル所ノ觸官器即チ皮膚ヲ言フ、五官器ハ何レモ腦髓ヨリ起レル特異ノ神經ヲ受容シ、之レニヨリテ各固有ノ官能ヲ營ム、其ノ作用ノ異ルニ從ヒ視神經、聽神經、嗅神經、味神經及觸覺ノ名稱アルモ何レモ知覺神經ニ屬ス、而シテ觸覺ハ皮膚全般ニ分布スル諸種ノ知覺神經ニヨリ司ラレ、身體各部ニヨリテ銳鈍ノ差アリ、通常指頭、唇等ハ銳敏ナルモ背部腰部等ハ遲鈍ナリ

(三) 吸入器使用ニ就テ注意スベキ事項

イ、水蒸汽噴出管及藥液吸上管ノ閉塞シ居ラザルヤヲ檢シ、閉塞シ居リタル時ハ細キ針金ヲ穿孔シテ開通セシム

ロ、蒸汽罐ニ入ル、水或ハ温湯ハ多クトモ罐ノ約三分ノ二ヲ超サ、ルコトニ注意ス、熱湯ヲ噴出シ火傷ヲ起スコトアリ  
ハ、酒精燈ノ火焰ハ強大ナラザル様注意ス、強大ニ過タル時ハ罐内ニ於テ劇シク沸騰シ熱湯ヲ噴出スルコトアリ  
ニ、蒸汽噴出ヲ初ムル時ハ先ツ湯呑等ヲ以テ噴出スル蒸汽ヲ受ケ、熱湯滴ノ噴出スルコトナキヲ確メタル後、患者ヲ適當ノ位置ニアラシメテ蒸汽ヲ吸入セシム、熱湯滴噴出ノ爲メニ不慮ノ火傷ヲ起スコトアリ  
ホ、患者ノ頸部以下、横臥ノ儘行フ時ハ蒲團等ニ油紙ノ類ヲ被フ  
ヘ、藥杯ノ藥液ノ吸上スルコトナキヤ否ヲ絶ヘズ注意ス  
ト、患者ハ出來得ル丈ク深く吸氣セシム  
チ、吸入終リタラバ含嗽セシメ、温湯ニテ顔ヲ拭ヒ、器ハ充分清洗、清拭シテ納ム  
(四) 呼吸困難ニ對スル看護法  
衣服ノ緊縛ヲ除キ殊ニ胸部ハ緩裕ナラシメ、上半身ヲ起シテ半臥狀トナシ、背部ヲ輕ク撫テ擦ヒ新鮮ノ空氣ヲ流通セシム、若シ異物竄入ノ徵アルトキハ之ヲ除クコトニ注意ス

### (五) 濕潤ナル土地ノ健康ニ及ボス影響

濕潤ナル土地ハ概シテ低地ニ多ク、濕潤ノ主ナル原因ハ地下水ガ土地ノ表面ヨリ近距離ニアルニ依テ起ルモノナルモ、地面ノ濕潤ハ多ク排水ノ不良ニヨリ汚水ノ滯溜其ノ原因ヲナスモノ多ク、又日光ノ直射少キニ因スルモノ多シ、從テ土地ノ濕潤ハ家屋内ノ濕潤ヲ來タシ、之ニ依テ諸種ノ疾病ヲ起シ健康ヲ害ス、即チ呼吸器疾患、神経系疾患、血行器疾患、新陳代謝的疾患、皮膚疾患等之ニ依テ起リ易ク、又土地ノ濕潤ハ飲料水ノ汚損ヲ來タシ、消化器疾患ヲ招キ又諸種ノ傳染病ヲ誘フノ因ヲナス等健康上惡影響ヲ來タスモノナリ

### (六) 呼吸器系ヨリ侵入スル傳染病ノ病名十ヲ舉ゲヨ

發疹チブス、猩紅熱、痘瘡、デフテリアヤ、肺ベスト、肺炎、流行性感胃、肺結核、麻疹、流行性腦脊髄膜炎

### (七) 顔面ノ消毒法

顔面ノ消毒ハ必要アラバ頭髮ヲ剃リ除キ、其ノ他ノ毛髮部モ必要アラバ剃リ除キ局部ハ加里石鹼及滅菌水又ハ石鹼精及滅菌セル刷毛又ハ絲爪ヲ用ヒテ洗擦シ、後滅菌「ガーゼ」ニテ乾拭シ酒精次ニ昇汞水ニテ擦拭ス、眼ノ附近ヲ消毒スル時ハ石鹼及酒精ノ眼ニ入ラザルコトニ注

意シ、或ハ單ニ昇汞水ノミヲ用フ、又顔面消毒ニハ「ヨードホルム」ノミヲ以テスルモ可ナリ、  
頭髮ハ滅菌布ヲ以テ覆ヒ、鼻、耳ニハ脫脂セザル「ガーゼ」ヲ栓塞シテ膿、血液等ノ竄入スル  
ヲ防グ

(八) 煮沸消毒ヲ避クヘキ物品ノ種類

書籍、襖、紙類其他ノ紙製品、疊、戸、障子等其他煮沸ニヨリ品質ヲ害スルモノ、即チ革類  
革製品、漆器其他ノ塗物類、「ゴム」製品、糊付品、膠付品等ナリ

(九) 綑帶ノ目的

- 1、病毒侵入ヲ防ギ且ツ壓迫及其他ノ障礙ヲ防グ
- 2、外用藥ノ滑轉脫落ヲ防グ
- 3、創口ヲ集合セシメ或ハ出血ヲ防グ
- 4、身體ノ弛緩部或ハ損傷部ヲ支持保定ス
- 5、骨折、脫臼ノ整復後位置ノ移動ヲ防グ
- 6、身體中殊ニ四肢ヲ牽引スルタメ

(十) 痔疾手術ニ用ラル器械ノ名稱

圓刃刀、球頭刀、消息子、溝狀消息子、雙鈍鉤、銳匙、肛門鏡、痔核鉗子、翼狀鉗子、鑷子、  
有鉤鑷子、反剪刀、解剖鑷子、烙白金、把針器、縫合針等ナリ

(十一) 重「クローム」酸加里中毒ノ應急手當

重曹水、牛乳、卵白ノ大量ヲ服用セシム、重曹水ノ胃洗滌ヲ行ヒ得レバ一層可ナリ、ナルベ  
ク自ラ嘔吐セシム、不能ノモノハ指ヲ口内ニ深ク入レテ催吐セシム

(十二) 捻挫ノ應急手當

安靜ニナシ水又ハ氷ニテ冷罨法ヲ施シ、堅ク綑帶ヲ施ス、不合理ノ按摩ハ却テ骨傷ヲ來タシ  
又關節炎ヲ起スコトアリ

大正十年

(一) 呼吸器系ヲ圖解ヲ以テ示セ

(大正八年第一問ニ同シ)

(二) 膽汁ノ生理的作用

膽汁ハ肝臟ヨリ分泌スル液ニシテ食物中ノ脂肪ニ作用シテ乳糜様ニ變化シ、動物膜ヲ滲透ス

ル性質ヲ附與シ、十二指腸及空腸ノ壁ヨリ吸收セシムルニ至ル、膽汁ハ又防腐的作用ヲ有ス

(三) 不眠症ニ對スル看護上ノ注意

1、臥床ヲ整頓シテ褥布等ニ皺襞等アラバ平等ニ之ヲ展ハシ、患者ヲシテ就眠ニ適應スル様ニナシ、室内ヲ稍暗クシ視官ノ刺戟ヲ防グ、電球ヲ青色若クハ黑色布ヲ以テ蔽フガ如キハ適切ナリ

2、室内ニ於ケル私語ヲ禁シ、努メテ外圍ノ靜肅ヲ圖リ聽官ノ刺戟ヲ斷ツ

3、夏暑炎熱ノ候ハ枕頭ニ氷塊ヲ安置スル等室内ヲ清涼ナラシメ專ラ患者心身ノ爽快ヲ圖ル

4、持續浴法(二十分間乃至一時間)ハ不眠症殊ニ神経系ノ患者ニ對シ効ヲ奏スルコトアリ

5、褥衣ヲ清潔乾燥シタルモノト交換ス

6、患者ノ慰安トナルベキ談話ヲ靜カニナス

7、頭部、四肢等ヲ輕ク摩擦スルコト

(四) 蒸汽吸入器使用上ノ注意

(大正九年第三問ニ同シ)

(五) 日光ノ効用

(大正六年第五問ニ同シ)

(六) 腸室扶斯ニ對スル最モ適當ナル豫防法

1、病毒ニ對スル身體ノ抵抗力ヲ強クスルコト

胃分泌液ハ病毒ヲ殺滅スル力ヲ有スルヲ以テ常ニ胃液ノ分泌ヲ旺盛ニスルコトヲ圖ル、即チ胃ノ强健ヲ圖ル、暴飲暴食、不馴ナル飲食物ノ攝取ハ胃ヲ損傷シ從テ胃液ノ分泌ヲ減ズ

2、病毒ノ侵入ヲ防グコト

生水、生食ハ病毒侵入ノ悞アリ之ヲ禁ジ手指ノ清潔或ハ消毒ヲ嚴行シ、被服、器具、住居凡テ清潔ニシテ光線ノ射入ヲ計ル

3、蠅ノ驅除ト防蠅ニ努ムルコト

蠅ハ病毒ヲ傳播スルヲ以テ、捕蠅器、捕蠅紙竊ニテ驅除シ不潔ノ場所ニ石油乳劑ヲ撒布シテ幼虫ヲ殺滅シ、尙ホ蠅ノ來襲ヲ防グタメ布片ヲ以テ被ヒ或ハ防蠅棚ヲ使用ス

4、豫防接種ヲ行フ

豫防接種ハ人體内ニ抗毒素ヲ蓄積セシムルモノナレバ豫防上最モ有効ナリ、數日ノ間隔ヲ

以テ二回若クハ三回ニ分ツテ行ハル、一回接種ニテハ殆ト効果ナク三回接種ハ二回接種ヨリモ一層効果アリ

(七) 室内ノ消毒方法  
イ、消化器系傳染病ノ場合

柱、敷居、廊下、疊、戸、障子、襖、壁及雨戸ノ全部等ハ昇汞水(疊ニハ着色セザルモノヲ用フ)「クレゾール」水、「フオマリン」水又ハ石炭酸水ヲ撒布シ又ハ同藥液ヲ以テ擦拭シ疊ニ在テハ再ビ日光ニ曝露ス

床板及床下ハ汚物ノ滲透ヲ受ケ若クハ其疑アル場所ニ限り床板ハ昇汞水、「クレゾール」水「フオルマリン」水又ハ石炭酸水ノ撒布又ハ擦拭シ、床下ハ石灰乳ヲ全面ニ撒布スルコト又天井ハ蠅ノ多數發生等ニ依リ病毒汚染シタリト認メタル場合ニ限り昇汞水、「クレゾール」水、「フオルロリン」水又ハ石炭酸水ノ撒布又ハ擦拭ヲナス

ロ、呼吸器系傳染病ノ場合

柱、敷居、廊下、及疊ハ消化器傳染病ノ消毒程度ニ準ス  
戸、障子、襖、壁、天井、鴨居、及額裏ハ全部昇汞水、「クレゾール」水、「フオルマリン」水又ハ

石炭酸水ヲ撒布スルコト(金屬性品ニハ昇汞水ヲ禁ズ)

ハ、「ペスト」ノ場合

天井板、床板、羽目板、雨戸、障子其他木製建具、器具類ハ「クレゾール」水、「フオルマリン」水石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ灌注若クハ拭淨スルコト

疊類ハ前項藥液ヲ以テ充分ニ灌注又ハ拭淨シ日光ニ曝露スルコト

床下ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト

(八) 尿尿ノ消毒方法

便器内尿尿ノ消毒ハ、最初二、三勺ノ石灰乳又ハ生石灰未ヲ入レテ患者ノ使用ニ供シ、患者ノ排便終リタルキハ、便器内尿尿ト同量ノ生石灰未又ハ石灰乳ヲ加ヘ、能ク攪拌シテ約一時間其儘トナシ置キ便所等へ捨ツ、但シ尿ト尿ト同量ノ石炭酸水(二十倍)又ハ「クレゾール」水(約十七倍)ヲ用フルモ可ナリ

(九) 糊帶材料ノ種類

卷軸帶、糊帶巾、壓定巾、綿紗、脫脂綿花、尋常綿花、「フランネル」布、油紙類、副木、絆創膏、排膿管等ナリ

(十) 鉗子ノ種類及使用後ノ取扱

麥粒鉗子、止血鉗子、贅肉鉗子、碎石鉗子、鉤狀鉗子、骨鉗子  
使用後ハ石炭酸中ニ浸漬シ、附着シタル汚物ヲ淨去シタル後滅菌器ニテ滅菌シ滅菌「ガーゼ」  
ニテ能ク拭ヒ、銹錆ヲ防グ爲メ「ワセリン」ヲ薄ク塗布シ置ク

(十一) 打撲傷ニ對スル應急手當

創面清潔ナル時ハ治シ易キモ不潔ナルトキハ化膿シ易シ、創面ニ異物ヲ混スル時ハ、石炭酸  
水ニテ濕シタル布片或ハ清潔ナル布片布ニテ拭ヒ取り、大ナル物ハ「ピンセット」ニテ挾ミトリ  
後石炭酸水ニテ靜カニ洗ヒ綿帶シ置ク、患部ハナルベク高クメルヲ良シトス、創口ノ開クモ  
ノハ醫ノ診療ヲ受ケ出血甚シキ時ハ止血ノ處置ヲ施ス

(十二) 猫「イラズ」飲用者ニ對スル應急手當

猫「イラズ」ハ磷製劑ナリ、依テ磷飲用者ニ對スル手當ヲ行ヘバ可ナリ即チ  
先ツ嘔吐ヲ催サシム、指ヲ口腔内ニ深く入レテ催セシムルカ、硫酸銅ノ稀薄液ヲ五分間毎ニ  
二瓦ツ、與ヘ嘔吐ヲ起サシム、胃洗滌ニハ〇、二%ノ過滿俺酸加里液ヲ用フ、「テレピン」油  
ノナルベク古キモノヲ一日一、〇乃至二、〇ヲ内服サセ、煖性「マグネシア」ノ下劑ヲ與フ

マヒシ油、卵黃、牛乳等ハ絶對ニ與フルヲ禁ズ、磷ハ之等ノモノニ溶解シ吸收サレルヲ以テナリ

## 大正十一年

(一) 腹腔内臓器ノ名稱

胃、肝臓、脾臓、膵臓、腸、腎臓、子宮、卵巢、輸卵管、膀胱、腔

(二) 皮膚ノ生理的作用

(イ) 防護作用、外來各種ノ侵襲ヲ防ギ、疼痛ノ感觸、寒熱ヲ腦ニ傳達ス

(ロ) 體温ノ調節作用、運動發熱又或種ノ疾病ニ當リ皮膚ノ血管擴張シテ紅色ヲ呈スルハ、  
體内ノ血液ヲ外表ニ導ク徵ニシテ、兼テ汗ノ分泌ヲ盛ナラシメ體温ノ低下ヲ致ス、之ニ反  
シ寒冷ノ候、冷水浴等ニ當リテハ皮膚血管ハ收縮シテ血液ヲ驅逐ス、爲メニ局部ハ蒼白色  
ヲ呈ス、之レ體温ノ放散ヲ防禦スルガ爲ナリ

(ハ) 不要分ノ排泄作用、皮膚ハ汗腺ニヨリ汗トナリ身體ノ不純成分、或ハ不要分タル尿素、  
他ノ酸化物、及血中ノ水分ヲ排除スル効アリ

(ニ) 瓦斯交換作用、極メテ僅微ナルモ皮膚呼吸ニヨリ酸素ヲ吸收シ、炭酸ヲ排除スル作用



ヲ有ス

(ホ) 皮脂ノ効用、皮脂腺ヨリスル皮脂ハ皮膚ヲ柔軟、滑澤ナラシメ身體外表ノ艶美ヲ添へ、兼テ水分ノ竄入ヲ防止スル作用ヲナス

(三) 塗擦法ヲ行フ場合注意スベキ事項

塗擦ヲ行フ前術者ハ必ず手指ヲ清潔ニ洗滌シ、温湯ニ潤シテ適度ニ温ムベシ

塗擦ハ必ず軟革、膀胱或ハ護謨指套ヲ以テ行ヒ、若シ之等ノモノナキ時ハ綿紗又ハ綿花ヲ丸メテ球狀トナシ用フ、決シテ裸手ヲ以テ行ハズ、殊ニ巴豆油、水銀軟膏ノ類ヲ用フル時ハ一層此ノ注意ヲ要ス

患部ニ疼痛ヲ感セザル程度ニ輕壓ヲ加ヘ充分皮下ニ擦入スル様注意ヲ要ス

酒精製劑、水溶液ハ皮膚ノ全ク乾燥スルマデ、油類、軟膏劑ハ皮上僅ニ其痕跡ヲ留ムルニ至ルマデ行フ、水銀劑等ハ屢口内炎ヲ起スヲ以テ常ニ口内ヲ清潔ニ保タシメ、或ハ鹽剝ノ含嗽ヲナサシム

(四) 「プリスニツク」氏崙法

脫脂綿或ハ綿紗ヲ數層ニ重ネ、常水或ハ藥液ヲ浸シテ患部ニ貼シ、其上ヲ亞麻仁油紙ニ被包

シ更ニ布片若クハ繃帶ヲ以テ輕ク固定ス、貼用中ハ常ニ濕布ノ乾燥如何ニ注意シ、乾燥シタル時ハ直ニ濕潤シタルモノト交換ス

(五) 水ノ人體ニ對スル効用

(大正七年第五問ニ同シ)

(六) 肺結核ノ主ナル傳染徑路

病毒ハ患者ノ分泌物、排泄物就中喀痰中ニ存ス、其ノ主ナル傳染徑路ハ左ノ如シ  
1、空氣ト共ニ吸入セラレ呼吸器系ニ依テ傳染ス、結核患者ノ咳嗽、噴嚏、談話時喀痰ハ飛沫トナリテ空氣ト共ニ吸入セラル、又吐出セラレタル喀痰ハ乾燥シテ飛散シ塵埃ト共ニ吸入セラル

2、結核菌ヲ含メル飲食物ノ攝取ニ依テ傳染ス

3、口ヨリ口ニ傳染ス

4、衣服寢具ニ依リ傳染ス

5、皮膚ノ損傷ニヨリ傳染ス

6、性慾關係ニ依テ傳染ス

(七) 唾痰ノ消毒方法

(大正七年第八問ニ同シ)

(八) 蒸汽消毒ニ適セサル器械

蒸汽消毒ニ適セザル器械ノ主ナルモノハ驅血帶、止血帶、腸線、「ゴムカテーテル」、「ゴムブ  
ージー」、ネラトシカテーテル、「胃洗滌器、胃管「ブージー」、鯨線附尿管「カテーテル」、革  
製吸子附注射器等ナリ

(九) 鑷子ノ種類及ソノ用途

常用鑷子、有鉤鑷子、動脈鑷子、其他匙狀鑷子、輪狀鑷子等ナリ  
常用鑷子ハ身體ノ組織ヲ挟ミ或ハ患部ニ附着セル異物ヲ挟ミ、又ハ其他「ガーゼ」類ヲ挟ムニ  
用フ

有鉤鑷子ハ皮膚ヲ切離シタル後其邊緣及組織ヲ把捉シ或ハ之ヲ緊展スルノ用ニ供ス

動脈鑷子ハ組織、動脈ヲ一度緊縮スル時ハ猥リニ排開セザルタメニ用フ

(十) 複帶ハ如何ナル場合ニ使用スルヤ及ソノ種類

複帶ハ綑帶ヲ纏絡スベキ部位ノ大小、形狀不正ニシテ單一ナル卷軸帶或ハ布帕ヲ以テ適宜ニ

綑帶シ能ハザル部位ニ施ス、其ノ種類ハ左ノ如シ

丁字帶、多頭帶、袋狀帶、假面帶、「メリヤス」製偏眼帶、拘舉帶、腹帶、「ヘルニア」帶、等アリ

(十一) 虚脱ノ症狀

虚脱トハ俄然發スル體力ノ衰脱ト、心臟痙攣ヲ以テスル症狀ニシテ、顔面ノ蒼白色若クハ「チ  
アノーゼ」、冷汗淋漓、四肢厥冷、瞳孔散大、脈搏微細頻數、呼吸淺表等ナリ

(十二) 猫「イラズ」中毒ノ應急手當

(大正十年第十 問ニ同シ)

## 實地試験問題

大 正 五 年

一、檢温器ノ使用方法

二、醫療器械ノ名稱及用途

大 正 六 年

- 一、體温 脈搏ノ記入
- 二、醫療器械ノ名稱及用途

大正七年

- 一、尿道「カテーテル」ノ使用法
- 二、醫療器械ノ名稱及用途

大正八年

- 一、檢温器ノ使用法
- 二、醫療器械ノ名稱及用途

大正九年

- 一、醫療器械ノ名稱及用途
- 二、熱型ノ鑑別

大正十年

- 一、檢温器ノ使用法
- 二、醫療器械ノ名稱及用途

- 一、熱型ノ記入
  - 二、醫療器械ノ名稱
- 附 録

### 看護婦に關する諸規則

(産婆ニ關スル法規二〇六頁以下参照ノコト)

#### 看護婦規則 (大正四年六月卅日内務省令第九號)

第一條 本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ傷病者又ハ褥婦看護ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ

第二條 看護婦タラムトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ヲ做ス)ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一、看護婦試験ニ合格シタル者

二、地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス

第三條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認めル者ニハ免許ヲ與ヘザルモノトス

第四條 看護婦試験ハ地方長官之ヲ施行ス

試験科目ハ左ノ如シ

一、人體ノ構造及主要器官ノ機能 二、看護方法 三、衛生及ビ傳染病大意 四、消毒方法 五、繃帶術及ビ治療器械取扱法大意 六、救急處置

第五條 一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラザレバ看護婦試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第六條 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若クハ之ガ指示ヲ爲スコトヲ得ズ、但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日内ニ免狀ノ寫ヲ添へ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スベシ

第八條 看護婦免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ住所地ノ地方長官ニ再下ヲ願出ヅベシ、但毀損ノ場合ニハ毀シタル免狀ヲ添附スベシ

族籍氏名ニ變更ヲ生ジ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ免狀ヲ添へ地方長官ニ書換ヲ願出ヅベシ

亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スベシ

第九條 看護婦廢業シタルトキハ二十日内ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スベシ

看護婦三年以上其ノ業務ヲ營マザルトキハ廢業シタルモノト看做ス

看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日内ニ免狀ヲ返納スベシ

第十條 第一項及ビ第二項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ届出ヅベシ

看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地

ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアル

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖ドモ疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與



條一第 看護婦試験ヲ受ケントスルモノハ願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)及戶籍謄  
 本又ハ抄本並寫真(堅約四寸横約二寸五分)ヲ添ヘ之ヲ當廳ニ差出スベシ  
 前項ノ寫真ハ試験出願前六個月以内ニ撮影シタルモノニシテ其裏面ニ撮影年月日及住所氏  
 名ヲ記載スルコトヲ要ス  
 他府縣ニ居住スル者本縣ニ於テ施行スル看護婦試験ヲ受ケムトスルトキハ本縣管内ニ假住  
 所ヲ定メ前各項ニ依リ願書ヲ差出スベシ  
 第二條 受験人ハ試験期日及場所ノ告示アリタルトキハ其當日午前八時マデニ指定ノ場所ニ  
 出頭シ之ヲ係員ニ届出ヅベシ  
 第三條 試験ハ午前九時ヨリ午後三時マデノ間ニ於テ之ヲ施行ス但シ臨時終始ノ時間ヲ伸縮  
 スルコトアルベシ  
 第四條 試験委員ハ受験人名簿ヲ作製シ各受験人ノ番號ヲ定メ之ヲ受験人ニ告知スベシ  
 第五條 受験人ハ試験委員ノ指揮ニ從ヒ各自ノ番號順ニ着席スベシ  
 第六條 受験人ハ筆墨硯ヲ持參スベシ  
 第七條 受験人ハ書籍及參考品ヲ携帶シテ試験場ニ入ルコトヲ得ズ

第八條 受験人ハ試験場ニ於テ互ニ談話シ又ハ物品ヲ授受スルコトヲ得ズ  
 第九條 試験場ニ於テハ受験人ノ番號ヲ用ヒ其氏名ヲ稱スベカラズ  
 第十條 受験人ハ試験委員ノ許可ナクシテ試験中其席ヲ離ルベカラズ  
 第十一條 試験ニ關シ不正又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ其試験ヲ無効トス  
 (第一號書式)

看護婦試験願

私儀本年何月何日施行ノ看護婦試験相受度別紙履歷書戶籍謄本(抄本)及寫真相添此段相願候也

年 月 日

族 籍 住 所

氏

名



知 事 宛

(第二號書式)

履 歷 書

族 籍  
住 所

氏

名

生 年 月 日

一、何年何月ヨリ何年何月マデ何年何ヶ月何所何某ニ從ヒ何學修業

一、何年何月ヨリ何年何月マデ何年何ヶ月間何學校又ハ何講習所ニ於テ何學修業

右

氏

名 印

右ノ通相違無之ニ付此段證明候也

住 所

醫師又ハ學校講習所長氏名 印

大正十一年九月十五日發行

大正十一年九月十日印刷



【正價金壹圓五拾錢】

編輯兼 發行人  
三重縣津市西檢校町七番地ノ三  
加 納 冬 子

印刷人  
三重縣津市釜屋町二十一番屋敷  
鈴 木 嘉 兵 衛

印刷所  
三重縣津市釜屋町二十一番屋敷  
鈴 木 活 版 所

56  
784



大正十一年八月十五日發行  
大正十一年八月十日印刷

明報社 餘木新刊

三書局 餘木新刊

明報社 餘木新刊

三書局 餘木新刊

明報社 餘木新刊

三書局 餘木新刊

【五國公債五折券】

發行所 上海



56  
184

12.6.7

終

